ボーリング柱状図

調査名 [redacted]

事業・工事名 [redacted]

ボーリングNo. 1

ボーリング名	H27-B-4	調査位置	X:277.520 , Y:897.180			北緯	35° 45' 12.76"
発注機関	日本原子力発電株式会社			調査期間	2015 年 5月23日～ 2015 年 7月 9日	東経	136° 1' 4.38"
調査業者名	[redacted]	主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	6.95 m	角度	上 180° 90° 下 0° 45.0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南 143.0°	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90° 0.0°	使用機種	試錐機	ハンマー落下用具	
総掘削長	140.00 m								エンジン	ポンプ	

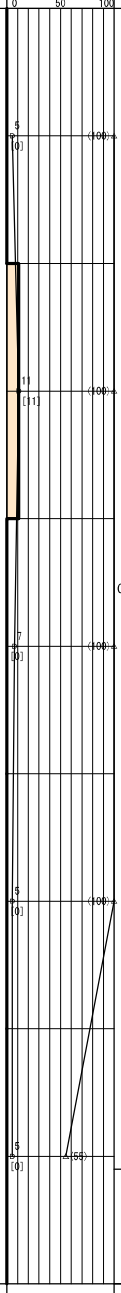
標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) / 最大コア長 cm / RQD [%]	岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	(N値)	(標準貫入試験 N値～深度) 図	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm/時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L/分)	排水量(L/分)
1				盛土	黒						0.00～13.75m：盛土 0.00～0.22m：礫 径5～50mmの角礫からなる。岩種は砂質頁岩。 0.22～3.10m：礫混じり砂 径2～20mm程度の花崗斑岩，アプライト，頁岩などの礫（角礫～亜円礫）を含む。最大径40mm。基質は褐色味を帯びた粗砂が主体。0.22～1.00m間は比較的細粒分に富む（細粒5～10%）。全体に緩く，コアは指圧で容易に凹む。	(100)																
2					明黄褐							(100)															
3											3.10～6.30m：砂質礫 礫分が多くなる。礫種は花崗岩類の他 黒色の砂質頁岩やコンクリート片が混じる。径10～100mmの角礫～亜角礫が多い。基質は細礫及び粗砂からなる。 3.30～3.58m：コンクリート片	(100)																
4											3.70～4.00m：基質は流失ぎみ。全体にルーズ。	(100)															

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm RQD [%]	岩級区分		孔内水位(m)／測定月日	（N）値	（標準貫入）試験 （N値～深度）図	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（L／分）	排水量（L／分）
				盛土	明黄褐						5.73～6.00m：基質はやや流失ぎみ。	(100)					0 10 20 30 40 50											
6											6.30～7.00m：礫混じり砂 粗砂が主体となる。花崗岩類の径5～20mmの角礫を5%以下で含み，極めて少量の径10mm以下の頁岩の角礫を含む。上位に比べて良く締っている。	(100)																
7					明褐灰						7.00～7.45m：アプライトの巨礫																	
					明黄褐						7.45～13.75m：礫混じり砂～砂質礫 径2～70mmの花崗岩類，黒灰色の頁岩の角～亜円礫を5%以上含む。基質は粗粒砂～細礫からなり，やや締まっている～締っている。	(100)																
8												(100)																
9												(100)																

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) / 最大コア長 cm / RQD [%]	岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	(N)値	(標準貫入) (N値～深度) 試験図	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm/時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L/分)	排水量(L/分)
11				盛土	明黄褐						10.15m：幾分炭化した長さ100mmの木片を含む。 11.03～11.52m：含有礫は上下位に比べて小さくなる。	(100) (100)														
12											12.05～12.20m：花崗斑岩の大礫を含む。 12.24m：木片混じる。 12.51～12.63m：幾分炭化した木片混じる。	(100)														
13											13.65～13.75m：木片混じる。13.75m付近に合板を含む。	(100)														
	-2.77	13.75																								
14				花崗斑岩	にぶい黄橙	Dg Eg Dg	vlg vg	dg cg	ε δ	2	13.75～140.00m：花崗斑岩 堆積物との境界は45°で明瞭。所々，斑晶が少なくアプライト様を呈する部分を含む。 13.75～14.67m：風化が著しく，割れ目の多くは不鮮明となる。 14.24m付近，65°の割れ目に沿ったマンガンの汚染が顕著である。 14.53m付近，頁岩礫を3個含む。上部からの崩壊物である。 14.67～15.49m：風化は若干弱くなり，割れ目のほとんどが認識できるようになるが，コアは，軟質で脆い。割れ目に沿った薄い白色変質脈が見られるものがある。	0 [0] 4 [0] (100)	D' CL'														

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm RQD [%]	岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	(N)値	(標準貫入)試験 (N値～深度)図	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L／分)	排水量(L／分)
16				花崗斑岩	にぶい橙	Dg	Vg	cg	δ	2	15.06m, 15.09mにはそれぞれ43°, 55°の割れ目沿いに幅1～3mmのマンガンを挟む。 15.30m以深は20°程度の低角度の割れ目が優勢，風化により割れ目沿いは劣化する。砂～シルト状の灰白色の細粒物が見られる。コアも軟質である。 15.49～15.62m：礫状コアを呈する。 15.62～15.91m：30°程度の割れ目沿いの劣化が著しく脆弱である。	4 [0] (100)	CL'														
					明黄橙																						
					オリーブ黄	Eg	VIg	dg		3	●15.91～16.33m：破砕部 15.91～16.33m：粘土混じり礫状～粘土質礫状部（Hj） 上端72°でやや湾曲して連続，下端不明瞭。径2～20mmの岩片主体で上部は割れ目が認められ，マンガン汚染を伴う。上端には幅2～6mmの緑灰色粘土が不連続に分布する。オリーブ黄色を呈する。 16.33～16.36m：粘土状～礫混じり粘土状部（Hc-I） 上端不明瞭，下端76°で波打って連続。径2～5mmの石英粒や岩片を10%以下で含む。灰白色を呈する。幅25mm。	3 [0] (100)	D'														
17					黄橙	Dg					16.36～16.52m：上位の破砕部と風化の影響で劣化が著しい。 16.52～17.03m：40～60°の割れ目沿いの劣化が顕著で一部礫～砂状となる。 17.03～17.86m：20°程度の低角度の割れ目が優勢で，割れ目沿いの劣化が見られ，コアも軟質で表面はザラつく。	14 [14] (100)														
18					浅黄橙		Vg	cg		2	17.86～18.52m：コア表面のザラつきは幾分少ない。20°程度の低角度の微細な割れ目が非常に多い。	15 [15] (100)	CL'													
						Cg			γ		18.52～24.55m：30～60°の中角度の割れ目が主体で，割れ目に沿った褐色化が認められる。風化し軟質となった比較的大型の斜長石の斑晶が目立つ。															
19					淡橙		IVg					9 [0] (100)															
						Dg	Vg				19.57～19.76m：礫状コアが主体となる。																
						Cg	IVg																				
						Dg	Vg		δ																		

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	(N)値	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L／分)	排水量(L／分)
21				花崗斑岩	淡橙	Dg	Vg	cg	δ	2	20.02m付近，傾斜50°で幅10～20mmの極めて小規模な変質部。途中でせん滅する。 20.07m：傾斜30°で幅10～40mmの小規模な変質部。 周辺岩盤にも同様な細粒部が認められており，その分布は不規則で系統性が認められない。また，原岩組織の残留の程度は周囲の岩盤と同様である。 20.23～20.37m：割れ目沿いに一部細礫状となる。 20.55～20.65m，20.87～20.94m：礫状となる。 21.18～21.50m：微細な割れ目に沿ってマンガンの汚染が明瞭である。 21.50～22.47m：割れ目に沿ってマンガンから褐色汚染へと変わる。	CL'														
22						Cg	Ⅳg	bg	γ																
23							Vg	cg			22.47～22.55m：コアチューブ引き上げ時の擾乱により礫状となる。 23.38～24.55m：コアは軟質となり，表面はザラつく。														
24						Dg			δ		24.13～24.55m：落下したコアを再採取したものである。														
	-10.41	24.55		コア欠如							24.55～25.48m：コア欠如														



（標準貫入）試験 （N値～深度）図

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) / 最大コア長 cm / RQD [%]	岩級区分		孔内水位(m)／測定月日	（N）値	（標準貫入）試験 （N値～深度）図	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（L／分）	排水量（L／分）
				コア欠如																								
	-11.07	25.48		花崗斑岩	淡橙	Cg	Ⅳg	cg	δ	2	25.48～27.22m：全体に変質し，長石の白濁化が目立つ。	18 [18] 52	CL'															
26						Dg					25.96～26.19m：コアは軟質で表面のザラつきが大きい。																	
							Vg				26.40～26.47m：割れ目沿いの劣化が明瞭で，コアも周辺より軟質である。	14 [28] 100																
						Cg																						
27						Dg					26.96～27.22m：岩質が軟質で脆弱である。																	
						Cg	Ⅳg				27.22m：40°の割れ目は，変質も加わり上端側は明黄褐色を呈し，幅20mmで軟質である。割れ目の面は凹凸があり，面のかみ合わせは良い。軟質部は連続せず，周辺岩盤との境界は一部を除いて漸移的である。軟質部の下端側の岩盤には原岩組織が認められ，軟質部と系統的な割れ目も存在しない。	9 [9] 100															
						Bg																						
28						Cg			γ		27.95～28.00m：割れ目が局所的に集中し脆弱となる。割れ目沿いの細粒部の分布は局所的で連続せず，脆弱部の範囲には原岩組織が認められる。 28.10m：傾斜60°で幅5～12mmのアプライト細脈を挟む。境界面は沖着している。 28.24m：25°程度で幅10mmが砂～礫状となる。上下端はシャープである。																
							Vg					15 [15] 100																
29							Ⅳg				29.48～29.91m：微細な割れ目が集中し，かつ，コアは軟質となる。29.59m～29.91mの微細な割れ目はマンガンに汚染される。 29.60～29.70m：割れ目が卓越する。割れ目は全体にマンガン汚染により黒色化し，割れ目には細粒部が認められず，割れ目が卓越する区間中に分布する幅2mmの石英脈にずれが認められない。また，割れ目が卓越する区間及び周辺の岩盤には原岩組織が認められる。 29.65m：傾斜45°で幅1～3mmの石英脈を挟む。 ●29.74～29.78m：破砕部 粘土混じり礫状部（Hj） 上端70°で幅2mmの白色粘土を一部に伴い，下端67°でマンガン汚染が顕著に見られ，いずれも直線的に連続。径2～20mmの岩片主体で岩片間にマンガン汚染が見られる。上端側は幅10mmで一部変質を伴う。にぶい橙色を呈する。幅23mm。																	
					橙	Dg	Vg					1 [21] 100																

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) / 最大コア長 cm / RQD [%]	岩級区分		孔内水位(m)／測定月日	（N）値	（標準貫入）試験 （N値～深度）図	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（L／分）	排水量（L／分）
31				花崗斑岩	にぶい橙	Dg Cg	Vg IVg				30.10～30.69m：25°前後の割れ目が見られる。 30.62～30.73m：やや不規則な形状の高角度の割れ目が2条分布し，マンガンが幅3～5mmで挟在する。	13 [25] (100)																
32						Cg	Vg IVg Vg IVg Vg		cg	γ	2	31.77～31.93m：25°前後の微細な割れ目が，ほぼ平行に密集する。 31.87～31.91m：上端45°で幅3mmの暗緑灰色の粘土～シルトを伴う。下端40°。上下端の間はやや緑色味を帯び軟質である。含まれる細粒部は不連続で，軟質な区間及び周辺岩盤には原岩組織が認められ，系統的な割れ目も存在しない。 32.05～32.72m：割れ目沿いの酸化汚染が目立つ。 32.36～32.39m：20°～30°程度の割れ目が平行して密集する。上下端の割れ目はマンガン汚染により黒色化しているが，割れ目に細粒部は認められず，割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ，系統的な割れ目も存在しない。 32.68～32.73m：30°程度の割れ目がほぼ平行して密集する。緑泥石の薄い脈が3条分布する。	12 [32] (100) 1 [22] (100)	CL'														
33							IVg					33.00～33.62m：30～50°の割れ目が卓越し，割れ目に沿って明瞭な劣化が見られるものが多い。 33.00m，33.46mの割れ目には幅2～5mm程度で緑色化が見られる。 33.30m：割れ目には幅1～3mmの灰白色粘土化が見られる。	0 [27] (100)															
34					灰白 にぶい橙	Dg Cg	Vg IVg					34.11～34.22m：不規則な微細な割れ目が多い。 34.22m：傾斜65°で幅8mmの石英脈を挟む。 34.30～34.42m：コアチューブ引き上げ時の擾乱により機械割れ目が集中し，礫～岩片状コアとなる。 34.55m付近，傾斜38°で局所的で連続しない細礫部を伴う。細礫状部は途中でせん滅し，周辺岩盤には原岩組織が認められ，系統的な割れ目も存在しない。 34.78m，34.79m：傾斜50°で幅1mm以下の石英脈を挟む。後者の割れ目には幅1mm以下の灰白色粘土を伴う。	1 [22] (100)														

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) / 最大コア長 cm / RQD [%]	岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	(N)値	(標準貫入)試験 (N値～深度)図	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm/時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L/分)	排水量(L/分)
				花崗斑岩	にぶい橙	Cg	Ⅳg	cg	γ	2	35.32m：傾斜40°で幅2～3mmの石英脈を挟む。周辺は幅1cm程度で赤味を帯びる。	14 [14] (100)	CL'			0 10 20 30 40 50											
							Vg																				
						Dg					35.60～35.78m：35°程度のほぼ平行した割れ目が密集し脆弱となる。割れ目沿いに白～灰黄色の粘土脈が見られる所が多い。																
36						Cg	Ⅳg	bg			35.72m付近は礫状であるが，挟在する細粒部は局所的に分布し，連続性に乏しく，35.70～35.72m間及び周辺岩盤には原岩組織が認められ，系統的な割れ目も存在しない。 35.78～39.40m：割れ目沿いの酸化及びマンガン汚染が目立つ。 36.14～36.35m：割れ目がやや卓越する。 36.25～37.20m：傾斜70°以上の高角度割れ目が見られる。	10 [10] (100)	CM'														
											36.86～39.40m：傾斜50～70°の割れ目が主体となる。																
37											36.98～37.10m：75°の割れ目に沿って幅12mmで白色化し，細礫～砂状となる。																
							Ⅲg				37.36m：25°の割れ目に沿って幅4mmの暗褐色のシルト～砂が流入する。 37.36～37.98m：割れ目沿いの酸化汚染は明瞭であるが，挟在物は見られない。	28 [28] (100)															
38						Bg	Ⅳg						CH'														
							Ⅲg				38.08～38.96m：挟在物を伴う割れ目は，38.53mの70°の1条のみである。	22 [56] (100)															
39						Cg					38.96m以深，割れ目に沿って劣化するものが多い。																
						Bg	Ⅳg	cg			39.21m，39.60～39.65m：割れ目沿いに劣化し，幅10mm以下で砂～細礫状となる。	15 [29] (100)	CM'														
					浅黄	Cg	Vg						CL'														

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm RQD [%]	岩級区分		孔内水位(m)／測定月日	標準貫入試験 (N)値	(N値～深度)図	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L／分)	排水量(L／分)
41				花崗斑岩	浅黄	Cg	Vg	cg	γ	2	40.64～40.93m：不規則な割れ目が卓越し，割れ目沿いの変質による劣化が明瞭である。灰白～黄褐色の砂～細礫状となる所が多い。 40.93～41.00m：割れ目に沿って劣化し，細礫状となる。 41.00～41.20m：低角度と高角度の割れ目が交差し，亀甲状となる。割れ目沿いに劣化が見られるものが多い。	8 [0] (100)															
42					にぶい橙	Dg	Vg																					
						Cg	Ⅳg																					
						Dg	Vg				41.37～41.47m：ほぼ平行な40°前後の割れ目が密集し，割れ目沿いの劣化が明瞭で脆弱である。																
						Cg	Ⅳg					6 [0] (100)																
						Dg					41.80～41.91m：割れ目沿いの劣化が顕著で非常に脆弱である。変質し灰白色粘土が網目状に分布する。																
						Cg																						
						Dg					42.12m：傾斜40°で幅2mmの黄褐色粘土を挟む。 42.12～42.25m：割れ目沿いの劣化が顕著で，一部硬質な砂状となる。粘土や鏡肌は見られない。 42.35m：25°の割れ目に幅2～3mmのマンガンを挟む。 42.38～42.46m：局所的に硬質な砂に岩片が混じる。褐色汚染も明瞭である。																
						Cg																						
						Dg						4 [0] (100)	CL'															
						Cg																						
43						Dg																						
						Cg																						
						Eg					43.05m：傾斜32°で幅10mmが劣化する。上端は幅1～2mmの石英脈，下端は幅2mmの灰白色粘土を伴う。灰白色粘土は分岐し，直線性に乏しい。 43.06～43.15m：コアチューブ引き上げ時の擾乱により岩片状を呈する。当該区間及び周辺岩盤には原岩組織が認められ，系統的な割れ目も存在しない。 43.54～43.65m：変質及び風化で脆弱となる。43.63mには幅15mm程度の白色の変質脈を伴い，粘土化はしていないが軟質である。 43.80～44.21m：20～30°の割れ目が卓越し，コアも軟質で表面はザラつく。																				
						Cg						3 [0] (100)																
						Dg	Vg																					
						Cg																						
44						Dg	Ⅳg																					
						Cg																						
											44.46m：42°の割れ目に沿って褐色汚染が顕著である。周辺には絹雲母と黄鉄鉱が散在し，幅5mm程度で緑色化する。	2 [21] (100)																
						Bg	Ⅲg	bg																				
						Cg	Vg	cg																				

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) / 最大コア長 cm / RQD [%]	岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	(N)値	(標準貫入)試験 (N値～深度)図	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L／分)	排水量(L／分)
46				花崗斑岩	にぶい橙	Cg	Vg	cg	γ	2	45.10m：割れ目に沿って上端側は一部，幅20mmで脆弱となる。絹雲母が散在し，緑色化が著しい。割れ目に細粒部は認められず，割れ目の上位側の脆弱部は局所的に分布し，連続性に乏しい。周辺岩盤には原岩組織が認められ，系統的な割れ目も存在しない。 45.42～45.62m：微細な割れ目が密集し，コアも軟質で表面がザラつく所が多い。 45.73～45.80m：割れ目沿いに劣化し，黄褐色の礫～砂状となる。	8 [9] (100)	CL'													
							Ⅳg																				
						Dg	Vg																				
						Cg	Ⅳg																				
47						Bg	Vg	bg			46.10～46.35m：60～70°の割れ目が密集する。挟在物を伴う割れ目もあるが，汚染はほとんど見られない。	10 [10] (100)	CM'													
							Ⅳg																				
						Cg	Vg	cg			47.11～47.32m：微細な割れ目が網目状となる。割れ目沿いの劣化も見られ軟質，脆弱となる。 47.36～47.53m：高角度と低角度の割れ目が交差し格子状となる。割れ目に汚染は見られないが砂状の挟在物を伴う。	9 [9] (100)													
							Ⅳg																				
						Bg																					
48						Dg	Vg				47.76～48.39m：微細な割れ目が卓越し，脆弱となる。 47.76～47.88m：割れ目沿いのマンガン汚染が明瞭である。															
										3																	
49										2	●48.39～48.43m：破砕部 砂混じり粘土状～礫質砂状部（Hc-2） 上端52°，下端45°。上端側は幅5～10mmでにぶい橙色を呈する砂混じり粘土状部，下端側は幅12～20mmで灰白色を呈する礫質砂状部からなる。両者の境界は波打っている。全体としてやや赤味を帯びる。幅30mm。 48.74m：傾斜40°の割れ目に幅1mm以下の灰白～緑灰色粘土を挟む。下端側幅2cm程度は長石の白濁化が目立つ。 48.87m：傾斜42°の割れ目とそれと直交する40～50°の割れ目に沿ってマンガン汚染が見られる。 49.02～49.18m：不規則な割れ目が発達する。 49.18m：63°で，上端側幅20mmが劣化し脆弱となる。幅2mm以下の褐色粘土及び上端側の脆弱部は途中でせん滅し，連続性に乏しい。周辺は幅5mm程度で緑色化する。周辺の岩盤には原岩組織が認められる。 49.43m：47°で幅2～4mmの白～黄褐色の鉱物脈を挟む。風化しやや軟質である。	5 [4] (100)	CL'													
						Cg	Ⅳg					1 [21] (100)															

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) / 最大コア長 cm / RQD [%]	岩級区分		孔内水位(m)／測定月日	(N)値	(標準貫入)試験 (N値～深度)図	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L／分)	排水量(L／分)
				花崗斑岩	いぶし橙	Cg	Ⅳg	cg	γ	2	50.09m：15～70°の湾曲した開口割れ目に幅5mmのマンガンを挟む。																	
						Eg	Ⅵg				50.39～50.60m：劣化し全体が軟質で，表面は砂状となる所がある。 50.58～50.92m：白色粘土細脈が不規則に分布する。	6 [0] (100)															
						Cg	Ⅳg																					
51							Ⅴg				51.20～51.43m：微細な割れ目が卓越し亀甲状となる。割れ目沿いに幅1mm以下でにぶい橙色粘土を挟む所が多い。	1 [11] (100)															
							Ⅳg																					
						Dg					51.66～51.97m：30～50°の微細な割れ目が非常に卓越し軟質となる。																	
52						Cg					52.11～53.35m：傾斜20°以下の微細な割れ目が1～3cm程度の間隔で発達する。割れ目に沿った褐色汚染は軽微である。																	
						Dg					52.38～52.44m：微細な割れ目が密集し，局所的に礫状となる。上端側の割れ目に幅4mmのマンガンを挟む。	6 [0] (100)	CL'														
							Ⅴg																					
53						Cg					52.90m：45°で幅4mmの変質した黄褐色粘土脈を挟む。褐色汚染が明瞭である。																	
						Dg					53.54～53.59m：割れ目沿いの劣化が明瞭で，一部は細礫～砂状となる。	4 [0] (100)															
54					明黄橙	Cg	Ⅳg				53.84m：高角度の割れ目に沿って劣化し，一部細礫状となる。	9 [0] (100)																
					いぶし橙		Ⅴg				54.66～54.73m：50～60°のほぼ平行な割れ目に沿って劣化し，一部礫状となる。褐色汚染も顕著に見られる。																	
											54.96～55.55m：傾斜20°以下の割れ目が非常に卓越する。																	

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) / 最大コア長 cm / RQD [%]	岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	(N)値	(標準貫入)試験 (N値～深度)図	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L／分)	排水量(L／分)
				花崗斑岩	にぶい橙	Cg	Vg	cg	γ	2	55.56m：50°の割れ目間に幅8mmで黄褐色の砂を挟む。褐色汚染も明瞭である。	7 [9] (100)				0 10 20 30 40 50											
56							Ⅳg																				
							Vg																				
							Ⅳg																				
							Vg	bg			56.45～56.61m：高角度と低角度の割れ目が交差し亀甲状となる。 56.74m：71°で幅3mmの褐色粘土を挟む。 56.88～56.98m：約50°のほぼ平行した微細な割れ目が卓越し，一部礫状となる。	10 [10] (100)	CL'													
57																											
						Bg					57.24～58.50m：多くの割れ目に褐色汚染が見られる。																
							Ⅳg					5 [0] (100)															
						Dg	Vg	cg			57.54～57.74m：傾斜50～66°の割れ目沿いに劣化し，軟質である。幅1～3mmの黄褐色粘土を挟む。																
						Cg																					
58											58.06～58.71m：岩質は硬い。																
						Bg	Ⅳg	bg				19 [32] (100)															
													CM'														
						Cg	Vg	cg																			
59											59.02～59.34m：潜在割れ目を除き，割れ目のない柱状コアで，岩質も硬い。																
						Bg	Ⅱg	bg																			
							Ⅳg					32 [44] (100)															
						Cg	Vg	cg					CL'														

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) / 最大コア長 cm / RQD [%]	岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	(N)値	(標準貫入)試験 (N値～深度)図	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L／分)	排水量(L／分)
				花崗斑岩	にぶい橙	Cg	vg	cg	γ	2	60.07～60.45m：微細な割れ目が卓越し，変質により軟質となる。割れ目沿いにコア表面は凹む所が多く，ザラつく。灰白～にぶい橙色の粘土が網目状に分布する。																
						Dg				3																	
						Cg				2	60.45～60.82m：30～60°の平行に近い割れ目が卓越し，割れ目沿いに褐色汚染が明瞭である。	4 [0] (100)														
61						Dg				3	60.82～61.72m：微細な割れ目が卓越し，にぶい橙色の粘土が網目状に分布する。コアも軟質で，特に61.40～61.58m間は劣化が顕著で砂礫状を呈する。	3 [0] (100)														
62						Cg		bg		2	61.72～62.36m：コアは若干硬くなるが，不規則で微細な割れ目が非常に卓越する。割れ目沿いの褐色汚染が見られる。		CL'														
63						Dg		cg		3	62.36～63.25m：コアは軟質で表面がザラつく。低角度がやや優勢な不規則で微細な割れ目が卓越する。割れ目沿いに灰白色粘土を伴う。 62.40～62.52m：長石の白濁化が目立つ。 62.75m：傾斜65°で幅10mmがやや緑色味を帯び，褐色汚染が明瞭である。割れ目に幅1mm以下の灰黄色粘土を断続的に挟み，連続性に乏しい。同系統の割れ目は白色脈を横断する。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ，系統的な割れ目も存在しない。 63.00～63.26m：劣化し全体に軟質である。割れ目に砂やシルトを挟む。	3 [0] (100)																
						Cg				2	63.26～63.62m：上下位に比べて変質の程度は弱い。割れ目に緑灰色や黄褐色の粘土を挟む。	6 [0] (100)														
					黄橙	Dg				3	63.62～63.90m：全体に軟質で，亀甲状の割れ目に灰白色シルトを挟む。															
64					にぶい橙	Eg	vg	dg		4	63.90～64.30m：強く変質し軟質で，割れ目は不鮮明となり，やや緑色を帯びる。原岩組織は認められる。															
						Cg	vg	cg		2	64.30～64.65m：上下位に比べて変質の程度は弱い。不規則な割れ目が発達している。酸化汚染は見られない。	4 [0] (100)	D'													
						Eg				3	●64.65～64.91m：破砕部 粘土混じり礫状部（Hj） 上端65°で直線的に連続，下端65°で不明瞭。径2～30mmの岩片主体で岩片間に幅1mm以下の灰白色粘土を挟む。上端には暗灰色粘土を幅3mmで伴う。また，64.74m及び64.80mに傾斜60°で幅1～3mmの灰～灰白色シルト（Hc-2）を挟む。全体はにぶい黄橙色を呈する。															
						Bg				2			CL'														

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) / 最大コア長 cm / RQD [%]	岩級区分		孔内水位(m)／測定月日	(N)値	(標準貫入)試験 (N値～深度)図	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L／分)	排水量(L／分)
66				花崗斑岩	褐灰	Bg	Vg	cg	γ	2	●65.59～65.72m：破砕部 粘土混じり砂～礫状部（Hj） 上端65°で直線的に連続，下端30°で不明瞭。径2～30mmの岩片主体で，一部砂状化する。灰色を呈する。幅110mm。65.65mには傾斜65°で幅2～3mmの灰白色粘土を部分的に挟む。 65.72～65.85m：網目状に微細な割れ目が発達し，所々，灰白色粘土を伴う。 65.85～66.30m：傾斜20～80°までの様々な角度の割れ目が分布し，やや脆弱であるが，褐色汚染は見られない。 66.30～67.28m：割れ目沿いに褐色汚染が見られる。特に66.80～66.95mの60～70°の高角度の割れ目沿いは顕著である。	3 [0] (100)																
67					灰黄褐	Eg	Ⅵg	dg		4																		
						Dg	Vg	cg		3																		
						Cg				2																		
						Dg				3	66.97～67.28m：割れ目が交差し，細かい亀甲状となる。	3 [0] (100)															
68					灰白	Eg	Ⅵg	dg		4	67.28～67.75m：変質部で，軟質でやや赤味を帯びた灰白色を呈する。割れ目は不明瞭となる。粘土化が進む。健岩部との境界は明瞭であるが湾曲している。上端側は低角度の割れ目で境される。原岩組織は不明瞭で含まれる岩片に定向配列などは見られない。	3 [0] (100)	CL'														
					にぶい橙	Dg	Vg	cg		3																		
						Cg				2	67.85～68.70m：傾斜30～50°程度の割れ目が主体で，特に，68.23～68.64m間は0.5～3cm間隔で発達する。割れ目には所々，灰白色粘土やマンガンを伴う。 68.07～68.97m：コアは軟質で表面がザラつく。																
						Dg						2 [0] (100)																
69						Eg	Ⅳg	dg			68.70m：30°で幅8mmの黄褐色粘土を挟む。割れ目の周辺は幅5～10mm程度で緑色化が顕著である。 68.70～68.97m：傾斜70～90°の割れ目が多い。 68.97～69.08m：細礫～砂状を呈するが，粘土は挟まない。																
						Cg	Vg	cg			69.28～69.33m：割れ目沿いに劣化し，細礫状となる。 69.59m，69.70m：傾斜25～30°の割れ目沿いにわずかに緑色化する。 69.63～69.77m：50～70°の高角度と25°の低角度の割れ目が交差し，高角度の割れ目沿いに劣化が明瞭である。 69.85～70.00m：割れ目が密集し，岩片状を呈する。	3 [0] (100)															
						Dg																						

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) / 最大コア長 cm / RQD [%]	岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	(N)値	(標準貫入)試験 (N値～深度)図	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L／分)	排水量(L／分)
				花崗斑岩	にぶい橙	Dg	Vg	cg	γ	2	70.06m付近，傾斜60°で幅20～30mmが局所的に脆弱となる。割れ目沿いの細粒部は連続性に乏しく，細粒部の下端側にある脆弱部も不連続で，脆弱部及び周辺岩盤には原岩組織が認められ，系統的な割れ目も存在しない。															
							IVg																				
							Vg																				
						Cg		bg			70.06m：傾斜55°で幅3～10mmの灰白色粘土を挟む。	9 [0] (100)														
							IVg																				
71											70.91～72.00m：アプライト脈を挟む。上端50°，下端はコア端部で不明である。															
											71.13～71.38m：褐色化する。															
											71.22m・60°，71.25m・54°の割れ目間が幅20～30mmで脆弱となる。割れ目に幅1mm以下の黄灰色粘土を挟むが，不連続である。2条の割れ目の間は原岩組織が認められる。															
						Dg					71.25～71.33m：マンガン汚染が顕著である。	5 [0] (100)														
											71.25～72.73m：やや軟質でコア表面はザラつく。															
								cg																			
72							Vg																				
						Cg					72.24m：傾斜53°で幅1～3mmのマンガンを挟む。															
											72.33m：32°の割れ目に幅8～15mmのマンガンに汚染された暗緑灰色の硬質な砂を挟む。細粒部周辺の岩盤には原岩組織が認められ，系統的な割れ目も存在しない。	5 [0] (100)	CL'													
								bg			72.41m：傾斜65°で幅1～2mmの灰白色粘土を不連続に挟む。															
											72.48m：傾斜38°の屈曲した割れ目に幅1～4mmのマンガンを挟む。径1～2mmの花崗岩類の岩片を多く含む。															
								cg																			
73						Bg	IVg	bg																			
												8 [0] (100)															
						Cg	Vg	cg			73.56m：65°で幅4～10mmのマンガン汚染された暗褐色のシルト質砂を挟む。															
74																											
						Dg	VIg				74.16～74.34m：30～50°の割れ目が密集し，脆弱である。															
											74.16～74.23m：微細な割れ目が発達し，マンガンが濃集する。上下端の境界は45°程度で凹凸が著しい。															
											74.32m：傾斜48°で幅3～5mmの砂混じり灰黄色粘土を挟む。	7 [0] (100)														
						Cg	Vg	bg			74.63m：傾斜60°で幅3～5mmの黄褐色の砂混じり粘土を挟む。周囲は細片化する。															

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) / 最大コア長 cm / RQD [%]	岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	(N)値	(標準貫入)試験 (N値～深度)図	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L／分)	排水量(L／分)
				花崗斑岩	淡橙	Bg	Vg	bg	γ	2	75.05～75.29m：20～40°の低角度の割れ目がほぼ平行して卓越する。	6 [0] (100)	CL'			0 10 20 30 40 50											
76						Cg		cg																			
						Dg					75.97～76.25m：割れ目沿いに劣化が見られ，やや脆弱となる。																
	-46.97	76.25									76.17m：傾斜51°で幅1～3mmの明褐色粘土を挟む。上端側は一部灰白色粘土が網目状に分布し，変質が進む。																
				アプライト			Ⅳg				76.25～77.80m：アプライト 径1～2mmの石英，長石，黒雲母を2～3%含む。上下端の境界はゆ着して不明瞭。	8 [0] (100)															
											76.61m：傾斜54°で幅1～3mmの明褐色粘土を挟む。																
						Cg					76.80m：傾斜45°で幅1～6mmの砂混じり灰白色粘土を挟む。 76.90m：傾斜50°で幅1～3mmのマンガンを挟む。																
77							Vg																				
											77.19m：傾斜50°で幅5mm程度の黄褐色粘土を挟む。																
						Dg					77.48～77.67m：20°程度の低角度割れ目沿いに劣化が見られ，コアは軟質でザラつく。77.55～77.60m間はマンガンが濃集する。	6 [0] (100)															
	-48.06	77.80																									
							Ⅳg	bg																			
78							Vg				77.96～78.08m：割れ目沿いに劣化し，黄褐色の砂状の挟在物を伴う。																
							Ⅳg	cg																			
						Cg					78.21～78.51m：多方向の割れ目が見られ，やや脆弱である。 78.29m：傾斜24°で幅10mm程度が砂～細片状を呈する。																
							Vg				78.47～78.71m：割れ目沿いにマンガン汚染が目立つ。	13 [13] (100)															
								bg																			
				花崗斑岩		Bg	Ⅳg	cg																			
79						Cg	Vg																				
						Bg	Ⅳg																				
						Cg	Vg						CM'														
											79.45～79.57m：短い筋状のマンガン汚染が多数見られる。高角度のものが多い。この筋上に割れ目として認識できるものは少ない。	14 [14] (100)															
							Ⅳg	bg																			
						Bg																					

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) / 最大コア長 cm / RQD [%]	岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	(N)値	(標準貫入)試験 (N値～深度)図	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L／分)	排水量(L／分)
				花崗斑岩	淡橙	Bg	Ⅳg	bg	γ	2						0 10 20 30 40 50											
						Dg	Vg	cg		3	80.13～80.29m：35～55° の同方向の割れ目が密集する。マンガン汚染が目立ち，脱色も見られる。 80.29～80.51m：割れ目はやや少なくなるが，割れ目沿いの劣化は明瞭である。	13 [24] (100)	CM'													
						Cg																					
						Bg	Ⅱg	bg			80.51～81.02m：割れ目に挟在物は見られず，岩質は硬い。		CH'														
81								cg																			
											81.30～81.96m：割れ目の挟在物も薄く，岩質も硬質である。90° の高角度の微細な割れ目が見られるが，完全に密着する。	15 [26] (100)														
							Ⅳg	bg																			
82						Cg				2		13 [13] (100)	CM'														
						Bg					82.70m，82.83m：傾斜50° 前後で幅1～3mmの褐色粘土を挟む。															
								cg																			
83					にぶい橙	Cg	Vg				83.08～83.32m：40° 前後の割れ目沿いに褐色汚染が明瞭である。汚染は，割れ目沿いのみならず，一部は岩芯まで褐色化する。多方向の微細な割れ目が発達する。 83.31m：傾斜38° 前後で幅0～8mmの暗褐色粘土を挟む。径1cm以下の岩片を多く含む。	12 [34] (100)														
						Bg	Ⅳg	bg																			
84																											
						Dg	Vg	cg		3	84.09～84.77m：多方向の割れ目が発達し，岩質も軟質である。特に84.15～84.18m，84.39～84.58m間は劣化が進み，脆弱である。黄色味を帯びて細片状を呈する。	8 [0] (100)	CL'													
										2																	
						Cg	Ⅳg	bg					CM'														

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) / 最大コア長 cm / RQD [%]	岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	(N)値	(標準貫入)試験 (N値～深度)図	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L／分)	排水量(L／分)
				花崗斑岩	にぶい橙	Cg	Ⅳg	bg				9 [0] (100)				0 10 20 30 40 50											
							Ⅴg	cg			85.73～85.97m：70～90°の高角度の2条の割れ目に挟まれた範囲で割れ目が発達し，岩片状となる。		CM'														
86						Bg	Ⅳg	bg				12 [23] (100)															
						Eg	Ⅶg	dg			86.73～86.83m：上端37°，下端40°の割れ目に挟まれた区間で局所的に明褐灰色の砂～礫状となる。																
87						Bg	Ⅲg	bg	γ	2	86.83～88.03m：傾斜60°前後の割れ目面や割れ目沿いは，褐色やマンガンの汚染が明瞭であるが，挟在物はほとんど見られず，岩質も硬い。 87.11m：傾斜60°で幅5mm程度が緑色化する。	23 [62] (100)	CH'													
88						Cg	Ⅳg	cg				18 [24] (100)															
						Bg		bg			88.59m：傾斜43°で幅1mm以下の灰白色粘土を不連続に挟む。周辺は幅3mm程度でわずかに緑色化する。																
						Cg		cg																			
89						Bg		bg			88.96m：45°の割れ目の下端側が劣化し局所的に非常に脆弱である。上端側は幅20mmで酸化汚染及びマンガンの汚染が明瞭に見られる。		CM'														
					浅黄橙	Cg	Ⅴg	cg			89.27～89.44m：傾斜45°前後の微細な割れ目が0.5～3cm程度の間隔で発達し，コアもやや軟質である。	8 [0] (100)															
						Bg	Ⅳg	bg																			

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) / 最大コア長 cm / RQD [%]	岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	(N)値	(標準貫入)試験 (N値～深度)図	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L／分)	排水量(L／分)
				花崗斑岩	浅黄橙	Bg	Ⅳg	bg	γ	2	90.64m：傾斜54°で幅2mm程度のマンガンを挟む。周辺は幅1cm程度緑色化する。 90.75～91.96m：微細な高角度の割れ目が卓越する。高角度の割れ目は，50°以下の顕在化した割れ目で止まっているものが多い。50°以下の割れ目に細粒部は伴わない，もしくは途中でせん滅し，連続性に乏しく，割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ，系統的な割れ目も存在しない。	17 [17] (100)	CM'														
91						Cg	Ⅴg	cg			91.45m：48°で幅6mmが緑色を帯びる。割れ目に挟在する細粒部はせん滅する。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ，系統的な割れ目も存在しない。	6 [0] (100)	CL'													
92						Dg					92.55～92.71m：多方向の割れ目が交差し亀甲状となる。岩質もやや軟質である。	6 [0] (100)														
						Cg					92.94～92.96m：傾斜27～40°の2条の割れ目に挟まれた区間が黄色味を帯びてやや軟質である。															
93						Eg	Ⅵg	dg		3	●93.13～93.22m：破砕部 93.13～93.14m：粘土状部（Hc-I）傾斜30°。淡黄色を呈する。幅12mm。 93.14～93.22m：粘土混じり礫状部（Hj） 上端30°，下端50°でいずれも直線的に連続。径2～10mmの岩片主体で岩片間にわずかに灰白色粘土細脈を挟む。にぶい黄橙色を呈する。幅67mm。	14 [14] (100)														
						Cg	Ⅳg	cg																			
							Ⅴg																				
						Bg	Ⅳg	bg		2			CM'														
94						Cg	Ⅴg	cg			94.38～94.40m：2条の割れ目沿いに劣化し脆弱となる。挟在する灰黄色粘土は不連続で，この区間及び周辺岩盤には原岩組織が認められる。系統的な割れ目は存在しない。	13 [13] (100)														
							Ⅳg	bg																			
							Ⅴg	cg					CL'														

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) / 最大コア長 cm / RQD [%]	岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	(N)値	(標準貫入)試験 (N値～深度)図	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L／分)	排水量(L／分)
96				花崗斑岩	浅黄橙	Bg	Vg	cg	γ	2	95.08～95.37m：35～60° の平行した割れ目に沿って弱い変質作用を受ける。割れ目沿いはやや緑色を帯びる。95.37mの割れ目に幅1mmの灰黄色粘土を挟む。 95.65～95.75m：傾斜60° で幅3cm程度が劣化し砂礫状を呈する。絹雲母が散在する。	3 [0] (100)	CL'			0 10 20 30 40 50										
97						Dg Eg Dg Eg	Ⅳg Vg	bg cg			96.20～96.32m：30° で幅30～40mmが脆弱で軟質となる。緑色を帯びる。下端側幅1cm程度は砂礫状を呈するが，含まれる礫や岩片に定向配列は見られない。脆弱部の境界は不明瞭で凹凸があり，脆弱部周辺の岩盤には原岩組織が認められ，系統的な割れ目も存在しない。 96.96m：傾斜52° で幅1.5cm程度が緑色化する。 97.10～97.58m，97.81～98.03m：割れ目が著しく発達し，砂礫状を呈する。コアが乱れている。	6 [0] (100) 3 [0] (100)	D'													
98						Cg	Ⅳg				98.03～98.27m：短柱状～岩片状コアからなる。傾斜40～60° の割れ目に沿った劣化が顕著である。 98.27～99.53m：柱状～短柱状コアからなるが，密着した微細な割れ目が非常に多く，軟質でコア表面はザラつく。	1 [11] (100)														
99						Dg Cg Dg Cg Bg	Vg Ⅳg	bg		3 2	98.64m：傾斜30° で幅5mm以下の灰白色粘土を挟む。 98.70～98.74m：マンガンが濃集する。 99.05～99.10m：局所的に劣化が進み礫状となる。酸化汚染も顕著である。99.10m付近に絹雲母が多く見られる。傾斜50° で幅1.5cm程度が緑色化する。	5 [0] (100)	CL' CM													

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) / 最大コア長 cm / RQD [%]	岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	(N)値	(標準貫入)試験 (N値～深度)図	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L／分)	排水量(L／分)
				花崗斑岩	浅黄橙	Bg	Ⅳg	bg	γ	2	100.28m, 100.30m：50～55°で幅2～4mmの赤褐色の砂状挟在物を不連続に挟む。褐色汚染が明瞭である。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ，系統的な割れ目も存在しない。 100.45m：25°の低角度割れ目の周辺に鮮やかな緑色の緑泥石が見られる。	9 [0] (100)	CM'													
							Ⅲg																				
							Ⅳg																				
101						Cg	Ⅴg	cg			101.31～101.43m：5～20°の低角度を主体とした割れ目が密集する。割れ目沿いの劣化も明瞭で，一部局所的に礫状となる。 101.34m：傾斜51°で幅5～10mmの褐色砂状部を挟む。径2～5mmの岩片を含む。 101.43～102.23m：柱状～長柱状コアが主体で，岩質も堅硬である。	36 [51] (100)														
						Bg	Ⅱg	bg																			
							Ⅲg																				
102						Cg	Ⅴg	cg			102.23～102.37m：傾斜50°の割れ目がやや卓越し，102.23m，102.25mは割れ目沿いの劣化が明瞭である。幅1～5mmの砂混じり黄褐色シルトを挟む。2条の割れ目の間及び周辺岩盤には原岩組織が認められ，系統的な割れ目も存在しない。	17 [27] (100)	CH'													
						Bg	Ⅳg	bg																			
							Ⅲg																				
103						Dg	Ⅴg	cg			103.40～103.55m：傾斜40～50°の割れ目の間に高角度の微細な割れ目が分布する。割れ目に沿ったマンガン汚染が見られる。	13 [13] (100)														
						Cg	Ⅳg																				
						Bg		bg																			
104						Cg	Ⅴg	cg			104.03～104.17m：50～60°の割れ目が卓越し，これとほぼ直交する割れ目は横断するものが見られる。割れ目沿いの細粒部は局所的に分布する。この区間及び周辺岩盤には原岩組織が認められる。		CM'													
						Bg	Ⅲg	bg																			
						Cg	Ⅳg				104.50～104.90m：斑状の褐色汚染が明瞭である。	14 [14] (100)														
					にぶい黄橙	Bg	Ⅲg						CH'														

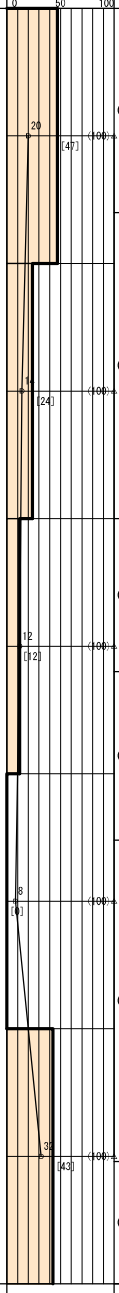
標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) / 最大コア長 cm / RQD [%]	岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	(N)値	(標準貫入)試験 (N値～深度)図	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L／分)	排水量(L／分)
106				花崗斑岩	にぶい黄橙	Bg	Ⅲg	bg	γ	2	105.08～105.80m：柱状コアが主体で岩質も堅硬である。	18 [44] (100)	CH'			0 10 20 30 40 50											
								cg					CM'														
							Ⅳg				106.31～106.38m：局所的に傾斜10～45°の割れ目が密集し，割れ目沿いの劣化もわずかに見られる。	16 [40] (100)															
					黄橙		Ⅲg				106.58～106.92m：斑状の褐色汚染が見られる。																
107					にぶい黄橙		Ⅳg	bg			106.87m：30°で幅3mmの汚染されて褐色となった砂～シルトを挟む。																
							Ⅱg																				
							Ⅳg				107.47～108.34m：堅硬な柱状コアが主体で，割れ目やコア表面にマンガンと褐色汚染が見られるが，挟在物はほとんど見られない。	19 [42] (100)	CH'													
							Ⅲg																				
108							Ⅱg																				
							Ⅳg																				
					浅黄橙	Eg	Ⅵg	dg		4	●108.44～108.71m：破砕部 108.44～108.63m：粘土混じり礫状部（Hj） 上端52°で直線的に，下端45°で不明瞭に連続。径2～10mmの粘土化した岩片主体で，全体に軟質で灰白色を呈し，弱い縞状構造が見られる。	22 [22] (100)															
109						Dg	Ⅴg	cg		2	108.63～108.67m：粘土質礫状部（Hb） 上端45°で不明瞭に，下端57°で漸移的に連続。径10mm以下の粘土化した岩片主体で，軟質。上位より変質し灰白色を呈する。幅30mm。 108.67～108.71m：礫質粘土状部（Hb） 上端57°で漸移的に，下端62°で波打って連続。褐色汚染が明瞭で，褐色の軟質な基質に径10mm以下の岩片を含む。縞状構造が見られる。幅35mm。 108.71～109.79m：傾斜40～60°の割れ目が卓越し，割れ目沿いの劣化も見られ，やや脆弱である。 108.71～108.90m：直交する2方向の割れ目が明瞭で，格子状となる。 108.90～109.03m：砂礫状を呈し，一部高角度割れ目に流入する。	5 [0] (100)	CL'														
					にぶい黄橙	Cg Bg	Ⅳg	bg																			
											109.41m：傾斜48°で幅0.5mmの灰白色粘土とマンガンを挟む。下端側幅1.5cm程度は珪化し，にぶい橙色に変色して原岩組織も不明瞭となる。 109.76～109.79m：傾斜50°の割れ目の間が幅3cm程度で変質し，灰白色を呈する。下端側の健岩部との境界は明瞭である。 109.79～110.78m：微細な割れ目が密集する所もあるが，コアは硬く，割れ目の多くは密着する。 109.79～110.38m：傾斜80°程度の割れ目が複数分布する。																	

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) / 最大コア長 cm / RQD [%]	岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	(N)値	(標準貫入) N値～深度 図	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm/時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L/分)	排水量(L/分)
				花崗斑岩	にぶい黄橙	Bg	Vg						CL'														
							Ⅳg					10 [10] (100)															
						Cg	Vg																				
111					橙	Bg	Ⅳg																				
						Cg	Vg				111.22～111.59m：傾斜80～90°程度の割れ目が複数分布する。		CM'														
					にぶい黄橙		Ⅳg	bg				16 [16] (100)															
											111.57m付近，局所的に割れ目面が鮮やかな青緑色に変色する。																	
112						Bg	Ⅲg		γ	2			CH'														
												1 [31] (100)															
											112.84～113.03m：傾斜60～80°の高角度の割れ目が優勢である。シャープな割れ目は見られないが，挟在物は無く，弱い褐色汚染が認められる。																
113							Ⅳg																				
						Dg	Vg	cg			113.41～113.54m：微細な割れ目がやや発達する。113.43mの割れ目沿いに劣化が見られ，幅5～30mmが軟質，脆弱となる。	1 [11] (100)															
						Bg	Ⅳg	bg					CM'														
114																											
							Ⅲg					5 [26] (100)															
						Cg	Vg	cg			114.57～114.76m：割れ目が発達する。114.60～114.66m間は40°程度の平行した割れ目が密集する。114.73m付近は礫～岩片状となる。																
						Bg	Ⅳg	bg																			

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) / 最大コア長 cm / RQD [%]	岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	(N)値	(標準貫入)試験 (N値～深度)図	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm/時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L/分)	排水量(L/分)
				花崗斑岩	いぶし黄橙	Bg	Ⅳg	bg	γ	2			CM'			0 10 20 30 40 50											
							Ⅲg				115.40～115.54m：115.46m付近の2条の潜在割れ目を中心に褐色汚染が明瞭である。黄鉄鉱を中心に褐色化が顕著に見られる。	22 (100) [57]														
116																											
							Ⅳg	cg			116.30m：57°で幅5mmの褐色に汚染された砂状挟在物が見られる。																
								bg			116.52～119.32m：柱状～長柱状の堅硬なコアが主体となる。	21 (100) [47]															
							Ⅲg																				
117																											
							Ⅱg						CH'														
					浅黄橙							30 (100) [72]															
								bg			117.83m：50°の割れ目に沿って熱水変質が見られ，緑泥石化により，やや緑色を帯びる。割れ目の周囲には絹雲母が晶出する。															
118																											
							Ⅲg					24 (100) [86]															
					いぶし黄橙																						
119							Ⅱg																				
							Ⅳg	cg			119.65～119.83m：割れ目がやや発達する。割れ目面にはマンガン及び褐色の汚染が明瞭で，一部は砂～シルト状の挟在物が見られる。	30 (100) [30]	CM'													

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) / 最大コア長 cm / RQD [%]	岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	(N)値	(標準貫入)試験 (N値～深度)図	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L／分)	排水量(L／分)
				花崗斑岩	にぶい黄橙	Bg	Ⅳg	cg	γ	2	120.05m, 120.07m：傾斜40°で幅2～4mmの灰白色粘土を挟む。		CM'			0 10 20 30 40 50											
							Ⅲg	bg			120.31m付近，35°の平行な割れ目が密集し，マンガンを挟む。 120.40m：40°の比較的のシャープな割れ目に緑灰色の変質脈と幅2mmの褐色化が顕著に見られる。 120.40～122.54m：堅硬な柱～長柱状コアからなる。褐色汚染が見られる割れ目が多い。	32 (100) [55]														
					浅黄橙		Ⅱg																				
121					にぶい黄橙		Ⅲg																				
							Ⅱg					28 (100) [83]	CH'														
					浅黄橙		Ⅳg				121.60m：傾斜50°の割れ目沿いの一部が脆弱で細礫状となる。白色のシルト状の挟在物が見られる。																
122							Ⅱg																				
					にぶい黄橙																						
					浅黄橙	Cg	Ⅳg	cg			122.46m：傾斜50°の割れ目の周囲が変質により緑色を帯びる。絹雲母が散在し，褐色汚染も顕著である。 122.54～123.84m：顕在化した割れ目の他，微細な割れ目が多い。	36 (100) [36]														
						Bg		bg																			
123						Cg	Vg	cg			123.00～123.26m：高角度の割れ目に幅1～6mmのマンガンを挟む。割れ目が密集し脆弱である。 123.15m：傾斜45°で幅1mm以下の灰白色粘土を不連続に挟む。周辺は幅3mm程度で緑色化する。		CM'													
							Ⅳg					8 (100) [0]															
					にぶい黄橙	Bg		bg			123.85m：60°で幅3mmの褐色に汚染された砂を挟む。																
124							Ⅱg				124.09～125.20m：柱状コアが主体となり，岩質も硬い。	26 (100) [71]	CH'														
							Ⅳg																				
							Ⅱg																				

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	(N)値	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L／分)	排水量(L／分)
126				花崗斑岩	にぶい黄橙	Bg	Ⅱg	bg	γ	2	125.37m付近，局所的に微細な割れ目が密集する。	CH'													
							Ⅳg																		
							Ⅲg																		
							Ⅳg				126.34～126.69m：柱状コアであるが，褐色汚染が見られる。汚染はコア全体に及ぶ。	CM'													
							Ⅲg																		
							Ⅳg																		
127						Cg	Ⅴg	cg			127.00～127.83m：不規則で微細な割れ目が発達する。 127.06～127.30m：軟質でコア表面はザラつく。変質により割れ目に沿って緑色を帯びる所がある。 127.19～127.22m：傾斜62°で幅0～10mm程度で局所的に灰白色粘土，一部赤褐色粘土を挟む。	CL'													
128						Bg	Ⅳg	bg				CM'													
						Cg	Ⅴg	cg			128.26～128.76m：微細な割れ目が多く，割れ目沿いに褐色汚染が見られる。														
						Bg	Ⅳg					CL'													
129					明黄橙	Cg	Ⅴg				128.90～129.15m：一部の傾斜30～45°の割れ目沿いに劣化が見られ，一部の割れ目は礫状となる。														
							Ⅳg																		
							Ⅴg																		
					にぶい黄橙	Bg	Ⅱg	bg				CM'													
							Ⅲg																		
						Cg	Ⅳg				129.98～130.50m：傾斜80°程度の割れ目が複数分布する。														



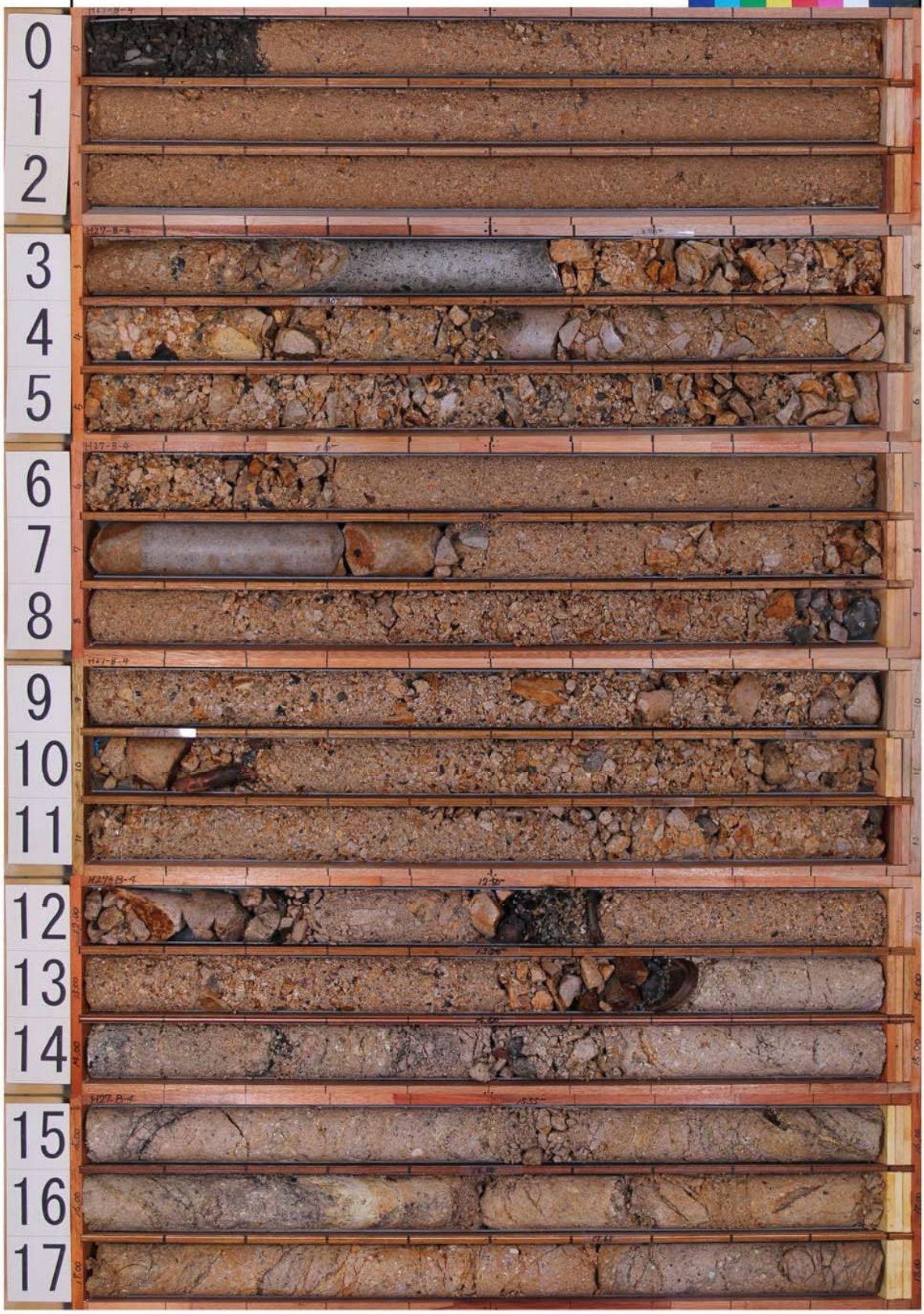
標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) / 最大コア長 cm / RQD [%]	岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	(N)値	(標準貫入)試験 (N値～深度)図	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L／分)	排水量(L／分)
131				花崗斑岩	にぶい黄橙	Cg	Ⅳg	bg	γ	2	130.02～130.42m：80°の高角度の割れ目が見られ，割れ目沿いに劣化し，一部礫状となる。	9 [0] (100)	CM'			0 10 20 30 40 50											
								cg			130.84m付近，交差する割れ目に挟まれた区間が局所的に劣化し，礫状となる。																
							Ⅱg	bg			131.54～131.61m：コアの半分が劣化し礫状となる。	33 [46] (100)															
132							Ⅲg																				
							Ⅳg				132.14～132.67m：堅硬な柱状コアからなる。																
							Ⅱg				132.31m：傾斜25°で幅1～2mmの石英脈を挟む。	26 [45] (100)															
							Ⅲg																				
						Bg	Ⅳg				132.67m：傾斜82°の割れ目が分布する。																
133								cg			132.87m：45°で幅3mmのマンガンを挟む。		CH'														
							Ⅲg	bg			133.24～133.29m：傾斜40～50°の割れ目間が礫状となり，礫には褐色の細粒物が付着する。	26 [57] (100)															
134											133.90m：傾斜72°の割れ目沿いに褐色化が顕著に見られる。																
					橙		Ⅳg				134.02～134.50m：強い褐色汚染がコア全体に及ぶ。																
					灰白		Ⅲg				134.50～134.74m：コアはやや青味を帯びる。風化の影響は少ない。	14 5 [45] (100)															
					にぶい黄橙						134.78m付近，黄鉄鉱が見られ，その周辺には褐色汚染が狭い範囲に見られる。																

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) / 最大コア長 cm / RQD [%]	岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	(N)値	(標準貫入)試験 (N値～深度)図	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm/時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L/分)	排水量(L/分)
				花崗斑岩	にぶい黄橙	Bg	Ⅱg	bg	γ	2	135.28～135.60m：傾斜25°前後の2～3条の割れ目が2～10cm程度の間隔で平行に分布する。岩質は硬い。	22 [38] (100)	CH'			0 10 20 30 40 50											
							Ⅳg	cg																			
							Ⅲg	bg																			
							Ⅳg																				
136						Cg	Ⅴg	cg			136.00～136.22m：傾斜90°の割れ目が複数見られ，低角度の割れ目と交差し，割れ目がやや発達する。割れ目にはマンガンに汚染された挟在物が見られるものがある。 136.04m：38°の割れ目に沿って幅1cm程度が緑色を帯びた緑泥石化による変質部が見られ，その中に小さな絹雲母が散在する。幅1mm以下の灰白色粘土を挟む。 136.10m：傾斜60°で幅2mmのマンガンを挟む。周辺は幅1cm程度で珪化し脱色する。 136.21～136.22m：傾斜25°程度の2条に分岐した割れ目に幅1～3mmのマンガンを挟む。 136.61m：幅5～15mmで局所的に傾斜30～40°の割れ目が密集し，マンガンの汚染が見られる。 137.02～138.59m：堅硬な柱状コアからなる。	9 [0] (100)	CM'													
							Ⅳg																				
137						Bg	Ⅲg																				
							Ⅱg	bg					CH'														
							Ⅲg					24 [54] (100)															
							Ⅳg																				
138						Cg	Ⅴg	cg			138.01～138.16m：微細でほぼ平行した50°程度の割れ目が非常に多い。幅2～3mmの灰黄色粘土を挟む。 138.28～138.29m：幅10mmで平行した60°程度の割れ目が密集する。		CM'														
							Ⅳg					16 [28] (100)															
						Bg	Ⅲg	bg																			
139					灰白								CH'														
					にぶい黄橙		Ⅳg				139.50～139.90m：傾斜70°程度の微細な割れ目が多い。	9 [0] (100)															
							Ⅴg	cg			139.90m：70°のシャープな割れ目に幅10mmの砂状とマンガンの挟在物が見られる。上端側には平行な割れ目が3条見られる。挟在物内の鉱物粒子に定向配列は見られない。周辺岩盤には原岩組織が認められる。		CL'														
	-92.04	140.00																									

[redacted]

孔番：H27-B-4　　深度　0.00m ～18.00m

[redacted]



[redacted]

孔番： H27-B-4　　深度　18.00m ～ 36.00m

[redacted]

[redacted]

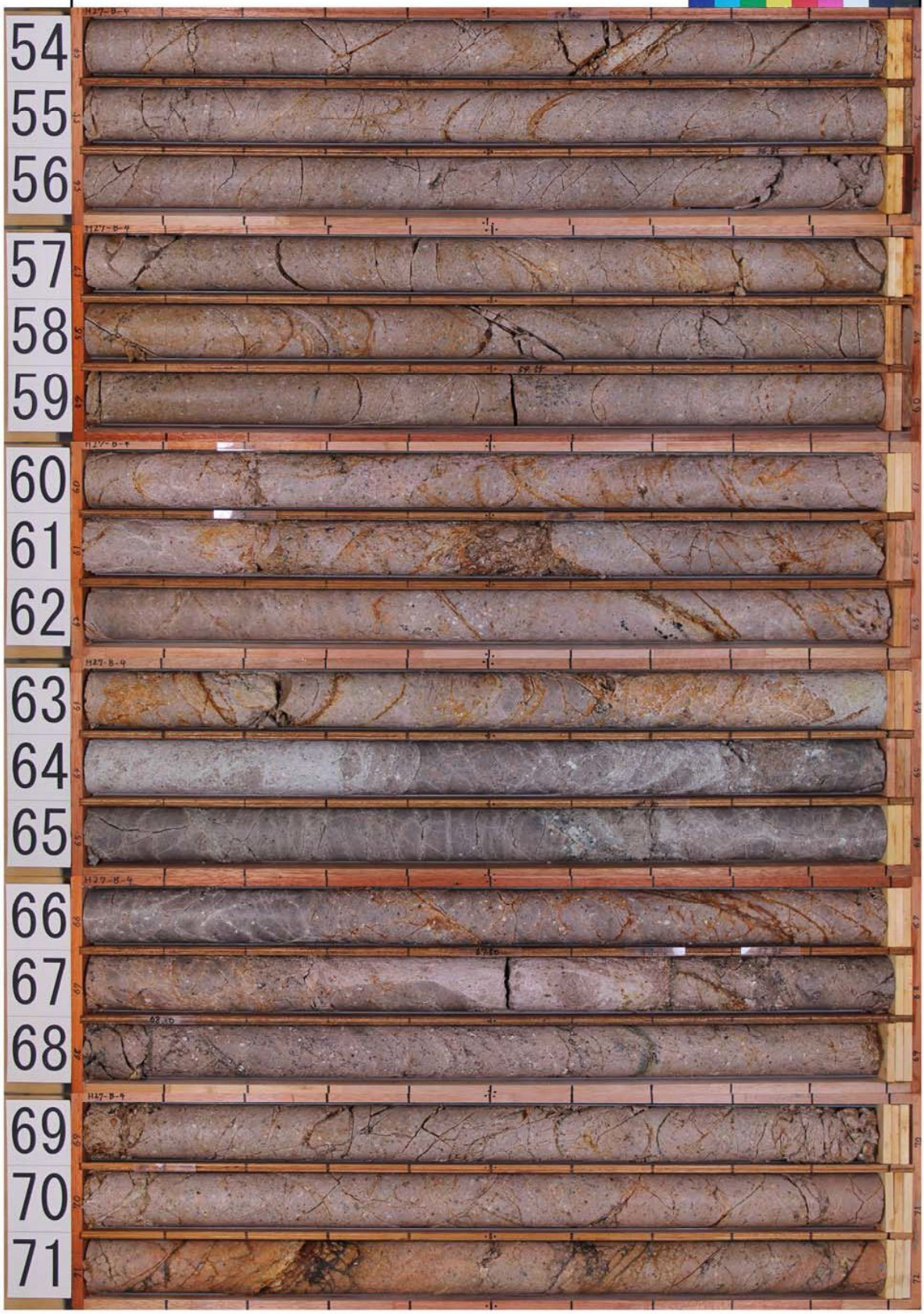
孔番： H27-B-4　　深度　36.00m ～ 54.00m

[redacted]

[redacted]

孔番： H27-B-4　　深度　54.00m ～ 72.00m

[redacted]



[redacted]

孔番：H27-B-4　　深度　72.00m ～ 90.00m

[redacted]

[redacted]

孔番：H27-B-4　　深度　90.00m ～ 108.00m

[redacted]

[redacted]

孔番：H27-B-4　　深度　108.00m ～ 126.00m

[redacted]

[redacted]

孔番： H27-B-4　　深度　126.00m ～ 140.00m

[redacted]

余白

H24－D1－5

余白

ボーリング柱状図

調　査　名 [redacted]

事業・工事名 [redacted]

ボーリングNo. 1

ボーリング名	H24-D1-5	調査位置	X:269.000 , Y:904.800			北緯	35° 45' 12.79"
発注機関	日本原子力発電株式会社			調査期間	2013 年 5月23日～ 2013 年 6月11日	東経	136° 1' 3.93"
調査業者名	[redacted]	主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	7.03 m	角度	180° 上 90° 下 0° 50.0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南 143.0°	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90° 0.0°	使用機種	試錐機	ハンマー落下用具
総掘削長	54.00 m								エンジン	ポンプ

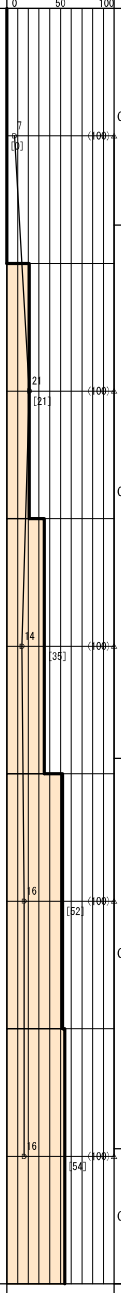
標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm RQD [%]	岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	(N)値	(標準貫入)試験 (N値～深度)図	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L／分)	排水量(L／分)
1				盛土	にぶい黄褐						0.00～7.41m：盛土 0.00～3.00m：粗砂 ルーズな粗砂からなる。径10～40mmの花崗斑岩，黒色砂岩などの礫を含む。	(100)				0 10 20 30 40 50										
2												(100)															
3											3.00～7.41m：砂礫 砂礫からなる。径2～5mmの石英粒，長石粒と径5～120mmの花崗斑岩の礫主体で，少量の黒雲母花崗岩，黒色砂岩を含む。硬質礫主体の亜角～亜円礫で，一部半クサリ礫を含む。礫率は30～40%で，7.20～7.41mは20%と少ない。基質は粗砂で比較的よく締っている。7.00～7.20mはルーズで均質な中砂からなる。	(100)																		
4					黄褐 灰黄褐 にぶい黄褐							(100)															

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) / 最大コア長 cm / RQD [%]	岩級区分		孔内水位(m)／測定月日	(N)値	(標準貫入)試験 (N値～深度)図	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L／分)	排水量(L／分)
6				盛土	にぶい黄橙																							
					にぶい黄褐																							
					にぶい黄橙																							
7					にぶい黄褐																							
	2.27	7.41																										
8				花崗斑岩	にぶい橙	Eg	Vg	cg	δ	3	7.41～54.00m：花崗斑岩 径1～10mmの石英，長石の斑晶を5～15%程度含む。19m以深は斑晶の量が少なくアプライト様を呈する部分もある。 7.41～8.51m：風化で著しく軟質化するが，原岩組織はほぼ残留し，割れ目は一部で消滅～消滅しかかるものもあるが，残留するものが多い。傾斜30～50°の割れ目が主体で，割れ目周辺の幅5～10mmが褐色化することが多い。長石斑晶は粘土化して白濁化するが，これ以外では粘土化や粘土脈は殆んど分布しない。上端には幅1cm程度のモルタルが付着する。 7.45m：傾斜40°の割れ目は，交差する傾斜53°で幅2mmの石英脈を止めている。割れ目には挟在物が認められない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ，系統的な割れ目も存在しない。 7.89m：傾斜50°の割れ目に幅1～3mm程度のマンガンを挟み，割れ目周辺は幅3～5mm程度で緑色化する。 8.03～8.08m：マンガン汚染が顕著で，径2～10mmの岩片を15～20%程度含む。 8.48m：傾斜45°で幅5～10mmが緑泥石化により緑灰色化する。粘土化は伴わない。 ●8.51～8.71m：破砕部 8.51～8.66m：粘土混じり岩片状部（Hj） 上端55°でほぼ直線的にシャープに，下端50°でやや不明瞭に波打ちながら連続。径5mm前後の原岩組織が消滅した軟質化～粘土化岩片と，岩片間を網状に分布する幅1～2mmの軟質な淡黄色粘土脈からなる。8.51～8.54mは粘土分が多い。淡黄～にぶい橙色を呈する。 8.66～8.69m：粘土質礫状部（Hb） 上端50°でやや不明瞭に，下端60°でやや波打って連続。径2～3mmの石英粒と径5mm前後の粘土化した花崗斑岩の岩片からなる。軟質。にぶい黄橙色を呈する。幅25～30mm。 8.69～8.70m：粘土状部（Hc-1） 上端60°でやや波打ち，下端60°で直線的に連続。径1mm以下の石英粒を少量含む。軟質。明赤灰色を呈する。幅3～8mm。 8.70～8.71m：粘土質礫状部（Hb） 上端60°で直線的に，下端65°でほぼ直線的にシャープに連続。径1～2mmの石英粒と径3～5mmの粘土化した花崗斑岩の岩片からなる。軟質。にぶい黄橙色を呈する。幅3～10mm。 8.71～10.19m：著しく軟質化し，原岩組織は一部で残留するが，割れ目は大半が消滅する。9.50～10.19mでは傾斜30～40°とこれに斜交～直交する傾斜50～70°の割れ目の一部が残留する。	2 7 [0] (100) 2 [0] (100) 2 [0] (100)	D'																	
9					にぶい黄橙		Vg	dg		3																		

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) / 最大コア長 cm / RQD [%]	岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	(N)値	(標準貫入)試験 (N値～深度)図	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm/時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L/分)	排水量(L/分)
11				花崗斑岩	にぶい黄橙	Eg	VIg	dg	δ	3	●10.19～10.21m：破砕部（H-3d破砕帯） 10.19～10.20m：粘土質礫状部（Hb） 上端27°で直線的にシャープに，下端36°でやや波打って連続。径1～3mmの石英粒と径5mm前後の粘土化した花崗斑岩の岩片を含む。軟質。灰白色を呈する。幅6～10mm。 10.20～10.21m：粘土状部（Hc-1） 上端36°でやや波打って，下端40°で直線的にシャープに連続。径1mm前後の石英粒を若干含む。軟質。灰白～上部側でにぶい黄色を呈する。幅4～6mm。 10.21～10.45m：消滅した割れ目が多いが，傾斜60～70°の割れ目と低密着割れ目の一部が残留し，幅0.5～1mmの軟質な白色粘土脈を挟むことが多い。 10.37m：傾斜65°の割れ目を境に色調がにぶい橙色から橙色に変わり，岩片も硬さ「D」が多くなり，粘土脈は分布しなくなる。割れ目には幅0.5～1mmの軟質な白色粘土脈を挟み，上端側幅約5mmはマンガン鉱染により黒褐色化する。 ●10.45～10.50m：破砕部（H-4'破砕帯） 10.45m：粘土状部（Hc-1） 傾斜30°で直線的にシャープに連続する幅1mm以下の軟質な白色粘土。 10.45～10.50m：粘土質礫状部（Hb） 上端30°で直線的にシャープに，下端40°で一部で大きく波打ちながら連続。径1～2mmの石英粒と長さ10～20mm，幅5～10mmの偏平化した花崗斑岩の礫を多く含む。軟質。灰白～にぶい橙色を呈する。幅40～45mm。 10.50～12.00m：原岩組織と割れ目は明瞭に残留する。傾斜40～60°の割れ目が破砕部とほぼ平行に分布する。割れ目沿いに砂状化し，幅0.5mm前後の軟質な白色粘土脈を挟むことが多い。 11.10～11.11m，11.90～11.95m：傾斜45～50°の割れ目沿いにマンガン鉱染を受け，黒褐色化する。 12.00～12.61m：傾斜50～60°の割れ目が数本分布するのみであるが，不規則状に低密着割れ目を含んでおり，打撃で径5cm前後の岩片に砕け易い。割れ目沿いの砂状化や粘土脈の挟在は少ない。 12.61～14.19m：傾斜40～60°の割れ目が主体で，これらに斜交～直交する20～40°の割れ目も多い。13.86～14.19mには傾斜80～85°の2本の割れ目が連続し，他の割れ目との交差部では砂状化～径5～10mmに細片化する。粘土脈は挟まない。	5 [0] (100)	D'													
12						Dg	Vg			4																	
						Cg	VIg			3																	
						Dg	Vg	cg				5 [0] (100)															
					明褐灰	Cg																					
							IVg	bg				1 [11] (100)	CL'														
13							Vg	cg		2																	
									γ			4 [0] (100)															
14						Bg	IIIg				14.19～16.18m：割れ目は傾斜50°以下が多く，割れ目は酸化で褐色化するが，砂や粘土などの挟在物はない。 15.53～15.92mは風化で表面が褐色化するが，劣化はない。15.40～15.65mに傾斜10～30°の，15.10～15.40mに傾斜85～90°の低密着割れ目が分布する。	14 [48] (100)	CM'													
					褐灰			bg					CH'														

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) / 最大コア長 cm / RQD [%]	岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	(N)値	(標準貫入)試験 (N値～深度)図	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm/時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L/分)	排水量(L/分)
16				花崗斑岩	褐灰	Bg	Ⅱg	bg	γ	2	16.18～16.72m：上位より若干風化が進み，割れ目沿いの一部やコア表面の一部が砂状化する。傾斜50～60°の割れ目が主体である。粘土脈は挟まない。	22 (100) [73]	CH'			0 10 20 30 40 50											
							Ⅲg																				
					にぶい褐		Ⅱg																				
							Ⅲg																				
						Cg	Ⅳg					13 (100) [28]	CM'														
17						Bg	Ⅲg			2	16.72～17.14m：傾斜40～50°の割れ目が平行に分布し，割れ目沿いの砂状化はなく，粘土脈も挟まない。17.07mに傾斜50°で幅1～2mmのやや湾曲した石英脈が母岩に密着して連続する。母岩との境界部にわずかに径0.1mmの微細な金属鉱物が晶出する。 17.07m：傾斜50°で幅1～2mmのやや湾曲した石英脈を挟み，径0.1mmの微細な金属鉱物が晶出する。 17.14～18.17m：上位よりも若干風化が進み，割れ目の一部で砂状化～径3mm前後で細片化する。粘土脈の挟在は少ない。傾斜30～50°の割れ目が主体で，一部でこれらに斜交～直交する50～70°の割れ目も分布する。18.05～18.09m間は割れ目の褐色化が進む。																
						Cg	Ⅳg	cg				7 (100) [30]															
18					明褐灰				δ																		
						Dg	Vg				18.17～18.64m：風化で軟質化する。割れ目は一部で消滅するが，傾斜40～50°の割れ目や低密着割れ目の一部が残留する。割れ目の一部は砂状化～径5mm前後に細片化する。粘土脈は18.28mの傾斜35°の消滅しかかった割れ目に幅0.5mmで軟質な白色粘土が分布するのみで，他の割れ目には分布しない。	8 (100) [31]	CL'														
						Eg	Ⅶg	dg		3	18.64～18.78m：18.72mに傾斜35°で幅3～4mmの軟質な灰赤色粘土脈が直線的でシャープに連続する。その上下端側には幅0.5mm以下の軟質な白色粘土脈が平行に分布する。																
19						Dg	Vg				18.78～19.11m：風化で軟質化し，割れ目の一部は消滅するが，傾斜40～60°の割れ目と低密着割れ目が残留する。割れ目の一部は砂状化するが，粘土化部は分布せず，粘土脈も挟まない。18.90～19.03m間は周辺よりやや硬質である。																
						Cg	Ⅳg	cg	γ	2	19.11～20.10m：傾斜40～60°の割れ目が主体で，一部で，これらに斜交～直交する10～30°の割れ目が見られる。割れ目の一部は薄く砂状化するが，粘土化部や粘土脈は分布しない。	12 (100) [32]														
						Bg					19.56～19.67m：ペグマタイト 傾斜65°で幅約100mm。最大径25mmの石英，径20mmのカリ長石などからなる。 19.66m：傾斜58°の割れ目は連続せず，交差する傾斜10°の割れ目を横断する。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ，系統的な割れ目も存在しない。 19.97m：傾斜80°で幅0.5～1mmの石英脈が母岩に密着して連続する。															

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	(N)値	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L／分)	排水量(L／分)
21 22 23 24				花崗斑岩	明褐灰 灰褐	Bg Dg Cg Bg	Ⅳg Ⅴg Ⅳg Ⅱg Ⅳg Ⅲg Ⅳg Ⅲg Ⅳg	cg bg	γ δ γ	2	20.10～20.46m：傾斜40～60°の割れ目と低密着割れ目が概ね1～3cm間隔で平行に分布する。一部で薄く砂状化するが，粘土脈の挟在は殆んどない。 20.11m：傾斜60°の割れ目はマンガン鉱染を受け，黒褐色化する。 20.46～20.85m：一部に硬質部を含むが，全体にやや硬質である。傾斜50～60°の割れ目が主体で，割れ目沿いの砂状化は殆んどないが，幅1～2mmの軟質な白～浅黄色の粘土脈を挟むことが多い。 20.65m～20.80m：割れ目はマンガン鉱染で黒褐色化する。 20.85～21.43m：傾斜20～30°とこれに斜交する50～60°の割れ目が主体で，一部で同傾斜の低密着割れ目も分布する。一部のコア表面は褐色化するが，劣化はない。割れ目の挟在物も見られない。 21.06m・30°と21.15m・50°の各割れ目はマンガン鉱染で黒褐色化する。 21.33m：傾斜60°の割れ目は，交差する傾斜20°の割れ目及び21.36mの褐色化した割れ目を横断する。割れ目には挟在物が認められない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ，系統的な割れ目も存在しない。 21.43～21.50m：傾斜20～30°と50～60°の割れ目が5～10mm間隔で交差し全体が軟質化する。幅0.5mmの軟質な白色粘土がわずかに付着する。 21.50～21.81m：わずかに低密着割れ目が分布する。 21.81～22.43m：傾斜10～40°とこれに斜交する40～60°の割れ目が主体で，22.10mの傾斜70°の割れ目は薄く砂状化し，22.36mの傾斜50°の割れ目には幅1～2mmの軟質な白色粘土などの挟在物が分布するが，全体的には割れ目に挟在物は分布しない。 22.10m：傾斜70°の割れ目沿いは砂状化する。 22.28m：傾斜80°で幅2～3mmのカリ長石の濃集部の脈が分布する。 22.36m：傾斜50°で幅1～2mmの軟質な白色粘土を挟む。 22.43～22.91m：傾斜45°前後の割れ目が主体で，一部これに斜交する10～20°の割れ目と低密着割れ目が分布する。 22.52～22.55m：傾斜15～20°の割れ目沿いが径10mm前後で細片化する。 22.56m：傾斜58°で幅1mmの石英脈が母岩に密着して分布する。 22.81～22.91m：割れ目や低密着割れ目にごく薄く砂状部を挟む。 22.91～22.94m：傾斜50～55°の割れ目に囲まれ，幅20mmが風化で砂状～細片化する。わずかに幅1mm・長さ20mmの軟質な白色粘土が分布する。 22.94～23.60m：傾斜20～30°とこれにほぼ直交する50～60°の割れ目が分布し，割れ目の挟在物はない。 23.45m以深はコア表面は風化で縞状ににぶい橙色を帯びる。 23.60～23.96m：傾斜30～45°と，これに斜交～直交する50°の割れ目が分布する。 23.96～24.47m：割れ目が少なく，上端，下端と24.26mに傾斜40～50°の割れ目が計3本見られる。割れ目に挟在物は分布しない。 24.47～25.80m：傾斜30～50°の割れ目や低密着割れ目が1～6cm間隔でほぼ平行に分布する。	CL' CM' CH' CM'											



標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) / 最大コア長 cm / RQD [%]	岩級区分		孔内水位(m)／測定月日	(N)値	(標準貫入)試験 (N値～深度)図	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L／分)	排水量(L／分)
				花崗斑岩	灰褐	Bg	Ⅳg	bg	γ	2	25.30～25.32m：傾斜45°で幅10mm程度が砂状～径5mmに細片化する。	13 [13] (100)	CM′				0 10 20 30 40 50											
							Ⅴg	cg																				
							Ⅳg	bg			25.80～26.95m：傾斜30～50°の割れ目とわずかな低密着割れ目がほぼ平行に10～15cm間隔が主体で分布する。一部でこれらと斜交～直交する10～50°の割れ目も分布し，26.41m～26.47mでは両系統の割れ目が交差し，径20～30mmの硬質岩片に細片化するが，砂～粘土化部は伴わない。割れ目やコア表面の一部は風化で褐色化するが，劣化は伴わない。																
26							Ⅲg																					
							Ⅳg																					
							Ⅲg					1 [22] (100)																
27							Ⅳg				26.95～27.20m：割れ目間隔3～10cmで割れ目がやや多いが，割れ目の挟在物は分布しない。																	
							Ⅲg				27.20～28.48m：コア長20cm以上，傾斜0～10°の割れ目が主体で，挟在物は分布しない。		CH′															
							Ⅱg					42 [62] (100)																
28							Ⅳg																					
							Ⅱg																					
							Ⅲg				28.48～30.20m：傾斜40～50°の割れ目が主体で，ほぼ平行に分布する。一部の割れ目や割れ目周辺は風化で褐色化し，コア表面はにぶい橙色を呈するが，砂状化などの劣化は伴わず，粘土や粘土脈も挟在しない。所々，マンガン鉱染で黒褐色化する。	29 [98] (100)															
29					にぶい橙		Ⅳg				29.20m以深では，一部に傾斜40～50°とこれらに斜交～直交する低密着割れ目も含み，ハンマーの打撃で10cm以下に分離することがある。	1 [22] (100)	CM′														

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) / 最大コア長 cm / RQD [%]	岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	(N)値	(標準貫入)試験 (N値～深度)図	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L／分)	排水量(L／分)
31				花崗斑岩	にぶい橙	Bg	Ⅳg	bg	γ	2	30.20～30.35m：傾斜30～40°の割れ目が5～20mm間隔で平行に分布し，風化で砂状化を伴い，軟質化する。粘土化や粘土脈は分布しない。		CM′														
						Cg	Ⅴg	cg																			
						Bg	Ⅳg	bg			30.57～30.77m：傾斜20～40°の割れ目が分布するが，割れ目は少ない。割れ目に挟在物は分布しない。	20 [30] (100)															
							Ⅲg																				
					明褐灰	Dg	Ⅴg		δ		30.77～31.57m：風化でやや軟質化する。傾斜30～50°の割れ目と一部でこれらに斜交～直交する30～50°の割れ目も分布する。また，同傾斜の低密着割れ目も31.40～31.57mに多く分布する。割れ目沿いに薄く砂状化することが多いが，粘土化部や粘土脈の分布は少ない。 31.06m：傾斜50°で幅1～2mmの風化して軟質な黄褐色粘土脈を挟む。		CL′														
						Cg	Ⅳg																				
						Dg	Ⅴg				31.42m・35°，31.52m・45°の各割れ目の下端側は幅12mm，幅30mmで砂状化する。 31.44m：傾斜40°の割れ目の下端側幅10～20mmがマンガン鉱染で黒褐色化する。 31.57～32.68m：傾斜30～50°の割れ目を主体とする。	7 [0] (100)															
32						Cg				2																	
						Bg																					
						Cg					32.14m：傾斜50°の割れ目沿いに幅2～4mmが砂状化～径2～3mmに細片化するが，粘土化部や粘土脈は分布しない。	10 [10] (100)														
33						Bg	Ⅳg	cg	γ		32.68～32.76m：上下端を傾斜45°の割れ目で囲まれ，風化で砂状化する。上端は一部で幅4mmの軟質な明黄褐色粘土を伴うが，粘土は連続しない。 32.76～33.96m：割れ目が多く，一部で砂状化部を挟む。傾斜40～70°の割れ目が主体で，一部これに斜交～直交する10～40°の割れ目も分布する。また，同傾斜の低密着割れ目も33.40～33.60mに多く分布する。		CM′														
												13 [25] (100)															
34						Dg	Ⅴg		δ	3	33.80m：傾斜50°の割れ目は，交差する傾斜25°の割れ目を止めている。割れ目に挟在物は認められない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ，系統的な割れ目も存在しない。 33.86m：傾斜25°で幅0.5mmの石英脈が母岩に密着して連続する。 33.96m：傾斜55°の割れ目の上端側は幅10～20mmで弱くマンガン鉱染を受け，下端側はやや軟質化する。 33.96～35.08m：風化で，多くの割れ目沿いは砂状化し，幅1mm前後の軟質な白～明黄褐色の粘土脈を挟むことが多い。一部の割れ目は消滅しかかり，不明瞭であるが，大半は明瞭に残留する。傾斜20～40°の割れ目が主体で，これらに斜交する40～70°の割れ目も分布する。35.05mに傾斜50°で幅4mmの軟質な明赤灰色の粘土脈を挟む。	4 [0] (100)	CL′														

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm RQD [%]	岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	(N)値	(標準貫入)試験 (N値～深度)図	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L／分)	排水量(L／分)
36				花崗斑岩	明褐灰	Dg	Vg	cg	δ	3	35.08～36.00m：割れ目の多くは砂状化したり，径5～10mmに細片化するが，粘土化部や粘土脈は分布しない。傾斜10～40°の割れ目と，これらに斜交する40～80°の割れ目からなり，同傾斜の低密着割れ目も多く分布する。 35.25m：傾斜50°の割れ目沿いに幅10mmが緑泥石化により淡緑灰色化し，径0.1mm程度の微細な白雲母が多数晶出する。 35.78～35.90m：割れ目や低密着割れ目沿いに弱くマンガン鉱染を受ける。 35.97m：傾斜60°の割れ目は，交差する傾斜55°の割れ目を止めている。幅2～3mmで径1～2mmの細片混じりの黄褐色粘土脈を挟む。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ，系統的な割れ目も存在しない。 36.00～36.70m：割れ目沿いやコア表面の一部が砂状化する。粘土化部や粘土脈の分布は少ないが，36.50～36.60m間には幅1～2mmの軟質な白色粘土脈を多く挟む。割れ目は傾斜40～60°とこれらに交差する20～30°の割れ目や低密着割れ目が多いが，後者は消滅しかかっているものもある。 36.70～38.71m：傾斜60～70°の割れ目と，これらに斜交～直交する20～50°の割れ目が主体で，割れ目沿いの砂状化は殆んどなく，粘土脈も挟まない。ただし，一部で風化により軟質化し，37.17～37.59m間は，傾斜50～70°とこれらに斜交する20～30°の割れ目で径10～30mmに岩片化する。 38.61～38.71m間は，傾斜70°と20～40°の割れ目が交差し，径10～20mmの岩片に細片化する。 37.72m：傾斜66°で幅1mmの灰白色粘土を挟む。周辺は幅5mmで灰オリーブ色を呈する。 37.85m：傾斜68°の割れ目沿いに幅10mm以下で淡緑灰色を呈する。 38.00～38.13m：傾斜60～70°と30～50°の割れ目が交差し，径10～40mmの岩片状を呈する。 38.13～38.71m：一部に硬質部を含む。傾斜60～70°の割れ目や低密着割れ目，母岩に密着した幅1～2mmの石英脈が平行に分布する。 38.71～38.79m：上端は礫状コアのため不明，下端は傾斜45°の直線的でシャープな割れ目で，この間は砂状化と幅1mm以下の軟質な灰白色粘土脈を多く伴い，劣化する。 38.79～40.73m：傾斜40～70°の割れ目や低密着割れ目が主体で，40.00m以浅では傾斜10～20°のものも分布する。割れ目の一部は薄く砂状化するが，粘土化部や粘土脈は殆んど分布しない。ただし，39.49～39.64mでは上端50°，下端60°の割れ目に囲まれ，風化で軟質化し，割れ目沿いに砂状化が進む部分もある。割れ目の一部はマンガン鉱染で黒褐色化する。	7 [0] (100)															
						Cg			γ	2																	
37						Dg			δ	3		6 [0] (100)															
						Cg	Ⅳg		γ																		
						Dg	Vg		δ			6 [0] (100)	CL'														
38					にぶい橙	Cg	Ⅳg		γ	2		5 [0] (100)															
						Eg	Vg		δ																		
39						Cg	Ⅳg		γ			4 [0] (100)															
						Dg	Vg		δ																		
						Cg	Ⅳg		γ																		

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) / 最大コア長 cm / RQD [%]	岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	(N)値	(標準貫入)試験 (N値～深度)図	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm/時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L/分)	排水量(L/分)
41				花崗斑岩	にぶい橙	Cg	Ⅳg	cg	γ	2	40.12m：傾斜57°の割れ目は，交差する傾斜40°の割れ目を止めている。割れ目に挟在物は認められない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ，系統的な割れ目も存在しない。 40.23m：傾斜54°で幅0.5～1mmの石英脈が母岩に密着して連続する。	11 [11] (100)	CL'													
							Ⅴg																				
						Eg	Ⅵg	dg	δ	3	40.73～40.85m：上端55°，下端60°の割れ目に囲まれて砂状化～マンガン汚染を伴う礫状化を呈する。割れ目方向に幅2～3mmの軟質な灰白～灰赤色の粘土脈を伴う。															
						Dg	Ⅴg	cg			40.85～41.08m：傾斜50～60°の割れ目が10～30mm間隔で平行に分布する。割れ目沿いに風化が進み，全体が軟質化する。一部でマンガン鉱染を伴う。															
42					明褐灰	Bg	Ⅳg	bg	γ		41.08～41.49m：傾斜10～30°の割れ目と一部で同傾斜の低密着割れ目が分布する。両者とも挟在物は挟まない。	10 [10] (100)														
						Cg	Ⅴg	cg		2	41.49～42.23m：傾斜10～30°の割れ目や低密着割れ目が主体で，一部でこれらに斜交～直交する50～70°のものが分布する。交差部のうち，42.15m付近では径5～10mmに細片化する。															
						Dg					42.05m以深では幅1mm以下の軟質な白色粘土脈を挟む。															
43					橙	Cg	Ⅳg				42.23～42.74m：幅1mm前後の石英脈が割れ目と平行して多数分布する。コア自身も一部珪化し硬質化する。傾斜50～60°の割れ目が平行に分布し，マンガン汚染が目立つ。 42.52m：傾斜55°の割れ目の一部が幅2～4mmで砂状，ないし，径2～3mmに細片化する。粘土は挟まないが，マンガン鉱染で一部黒褐色化する。	13 [13] (100)														
					にぶい橙	Dg	Ⅴg				42.74～43.25m：風化で割れ目の一部は消滅ないし消滅しかかっている。残留する割れ目は傾斜50～60°が主体である。42.85mに傾斜40°，43.21mに傾斜30°で幅1mmの石英脈が母岩に密着して連続する。 43.03m：傾斜64°で幅2～4mmの灰白色粘土を挟む。 43.03～43.15m：微細な割れ目にマンガンを伴う。															
44						Eg	Ⅵg	dg	δ	3	43.25～45.09m：風化と変質で著しく軟質化するが，部分的に硬さ「D」の岩片が残留する。原岩組織は残留するが，割れ目はほぼ消滅する。所々，幅1～3mmの軟質な灰白色粘土を脈状，ないし，網状に含む。 43.58～43.76m：マンガン汚染が顕著で，一部，径2～30mmに岩片化する。 43.80m：傾斜60°の割れ目は，上端側に分布する複数の粘土脈を止めている。割れ目には幅0.5mm以下の不連続な灰白色粘土を挟む。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められる。	2 [0] (100)	D'													
										4	44.30～44.94m：硬さ「D」の岩片を多く含む。	1 [0] (100)														

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm RQD [%]	岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	(標準貫入)試験 (N)値	(N値～深度)図	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L／分)	排水量(L／分)
46				花崗斑岩	にぶい橙	Eg	Ⅵg	dg	δ	4	45.09～45.82m：風化で軟質化する。傾斜30～50°の割れ目が主体で，割れ目沿いに砂状化する。粘土脈は少ない。 45.54m：傾斜55°で幅1～2mmの黄褐色粘土脈を挟む。 45.82～45.89m：上端58°，下端55°の直線的でシャープな割れ目に囲まれ，灰白～灰黄色粘土と径5～10mmの一部粘土化，一部硬さ「D」の花崗斑岩の岩片からなる粘土混じり岩片状の変質部。一部，マンガン汚染が顕著で幅2～15mmの岩片を25%程度含む。 45.89～47.47m：風化により一部の割れ目は消滅，ないし，消滅しかかっている。残留する割れ目は傾斜60～70°が主体で，割れ目沿いに砂状化することが多い。粘土脈の分布は少ない。46.00～46.20m間では幅1mm前後の軟質な白色粘土が目立つが，粘土脈としての連続性はない。部分的に軽微なマンガン鉱染を受ける。	3 [0] (100)	D'													
47					明褐灰	Dg	Ⅴg	cg		2		4 [0] (100)	CL'													
							Ⅳg																			
						Eg	Ⅴg			3	47.20m：傾斜50°の割れ目は幅4～7mmで径2mmの石英粒と軟質な白色粘土を挟む。 47.20m以深では，傾斜50°前後の割れ目や低密着割れ目が1～2cm間隔で分布し，その殆んどに幅0.5～2mmの軟質な白色粘土が付着する。 ●47.47～47.89m：破砕部（D-1破砕帯） 47.47～47.48m：粘土状部（Hc-1） 傾斜65°で直線的にシャープに連続。径1～2mmの石英粒を少量含む。軟質。灰褐色を呈する。幅3～6mm。 47.48～47.66m：粘土質礫状部（Hb） 上端65°で直線的にシャープに連続，下端は不明瞭で漸移的である。径2～3mmの石英粒と径5～10mmの大半が粘土化した花崗斑岩の岩片を含む。軟質。灰黄色を呈する。石英粒と岩片の多くはマンガン鉱染で黒褐色化する。幅67mm（68°）。 47.66～47.86m：粘土混じり岩片状部（Hj） 上端は不明瞭で漸移的に，下端63°で直線的にシャープに連続。径10～40mmの一部粘土化，一部硬さ「E」，ないし，「D」の岩片主体で，岩片間の基質は灰黄～灰白色に粘土化する。石英粒と岩片の一部はマンガン鉱染で黒褐色化する。全体は灰黄～灰白色を呈する。幅90mm（63°）。 47.86～47.89m：粘土質礫状部（Hb） 上端63°，下端60°でともに直線的にシャープに連続。径2～10mmの石英粒を多く含む。軟質。灰白色を呈する。幅15mm（60°）。 47.89～48.30m：風化で割れ目の一部は消滅，ないし，消滅しかかっているが，傾斜50～60°の割れ目と低密着割れ目が残留し，一部で砂状化～白色，ないし，淡黄色のやや硬質な粘土脈を挟む。また，弱くマンガン鉱染を受け，黒褐色化する 48.30～48.61m：傾斜40°前後の割れ目が主体で，一部でこれらに斜交～直交する20～30°も分布し，両者が交差する48.40～48.45mでは径5～10mmの岩片に細片化する。割れ目沿いの砂状化は殆んどなく，粘土脈も分布しない。 49.38～52.75m：傾斜50～60°とこれらに斜交～直交する20～50°の割れ目が主体で，同傾斜の低密着割れ目も一部に分布する。																				
					灰黄					4		4 [0] (100)	D'													
48						Dg	Ⅴg																			
					灰褐	Cg	Ⅳg		γ	2		3 [0] (100)	CL'													
						Dg	Ⅴg																			
49						Cg																				
						Bg	Ⅳg	bg				7 [0] (100)	CM'													

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) / 最大コア長 cm / RQD [%]	岩級区分		孔内水位(m)／測定月日	(N)値	(標準貫入)試験 (N値～深度)図	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L／分)	排水量(L／分)
51				花崗斑岩	灰褐	Bg	Ⅳg	bg	γ	2	50.63～50.66m：割れ目沿いに径3～10mmに細片化するが，砂状部や粘土化部は伴わない。 50.73～50.85m：傾斜50～60°の割れ目沿いがやや赤色を帯びる。 51.38～51.42m：傾斜50～60°の割れ目沿いにやや軟質化し，硬さ「C」となるが，粘土化や粘土脈は挟まない。 51.38mの割れ目沿いは砂状化する。	10 [10] (100)	CM'														
52											52.17m：傾斜50～60°でやや波打つ割れ目沿いが幅1～3mmで緑泥石化により緑灰色化し，径0.5mm以下の微細な金属鉱物が晶出する。	10 [29] (100)															
53							Ⅲg				52.75～53.58m：傾斜30～60°の割れ目が主体で，割れ目に砂状化部や粘土化部～粘土脈は挟まない。一部，微細な割れ目が分布するが，密着度は高く，ハンマーの打撃では分離しない。 52.91m：傾斜50°で幅2～4mmの石英脈が母岩に密着して連続する。一部，溶脱部を伴う。	18 [24] (100)	CH'														
							Ⅳg				53.58～54.00m：傾斜20～60°の割れ目と一部で同方向の低密着割れ目も分布する。一部では，ハンマーの打撃で低密着割れ目沿いに分離，岩片化する。		CM'														
	-27.68	54.00																										

[redacted]

孔番　D1-5 孔　　深度　0.00m ～18.00m

孔口標高　7.03m

[redacted]

[redacted]

孔番　D1-5 孔　　深度　18.00m ～ 36.00m

孔口標高　7.03m

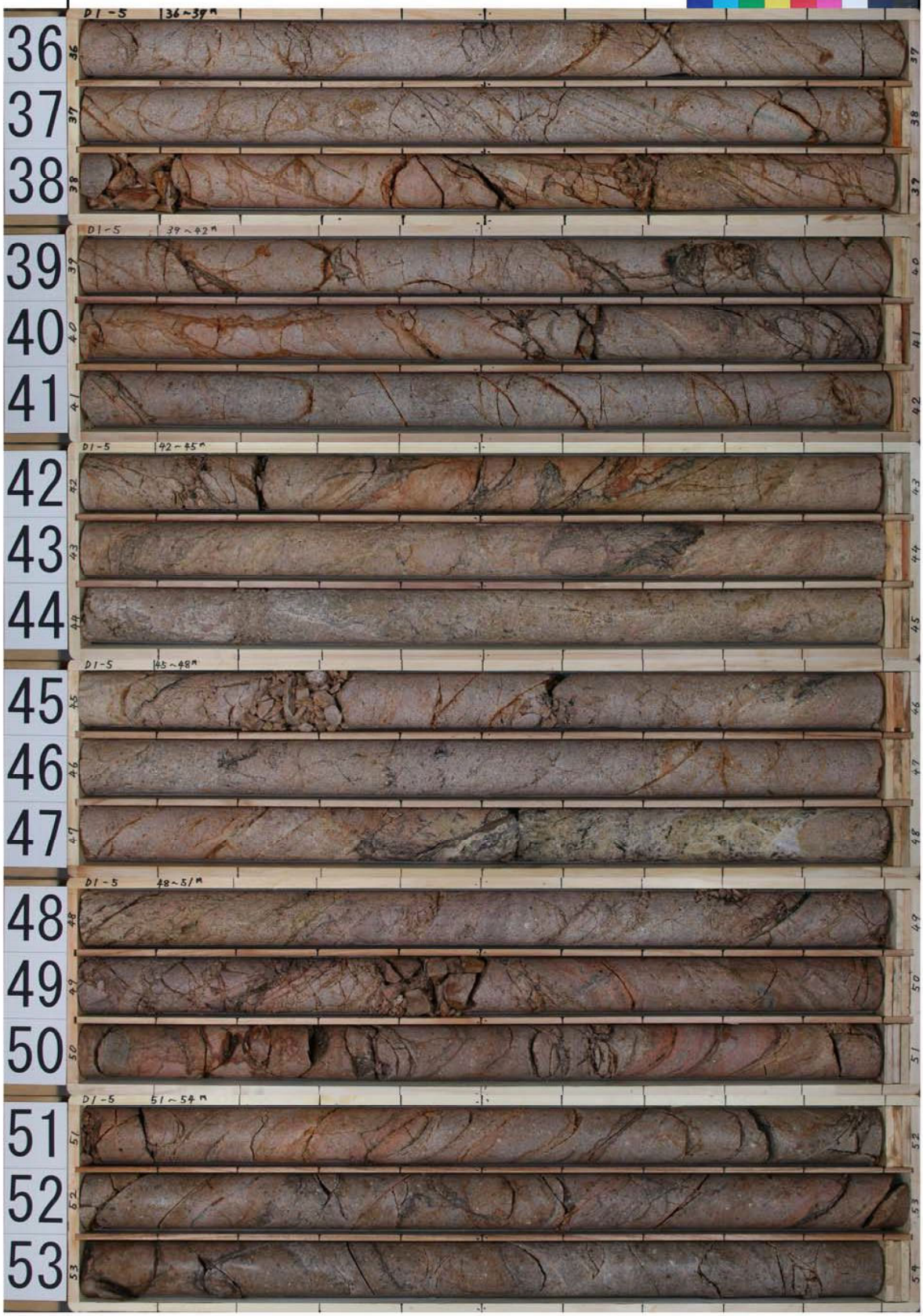
[redacted]

[redacted]

孔番　D1-5 孔　　深度　36.00m ～ 54.00m

孔口標高　7.03m

[redacted]



余白

H31－R－1

余白

ボーリング柱状図

調　査　名 [redacted]

事業・工事名 [redacted]

ボーリングNo. 1

ボーリング名	H31-R-1	調査位置	X：158.196,Y：894.907	北緯	35° 45' 10.3901"
発注機関	日本原子力発電株式会社	調査期間	2019 年 2 月 4 日～ 2019 年 6 月 11 日	東経	136° 1' 0.6279"
調査業者名	[redacted]	主任技師		現場代理人 / コア鑑定者	ボーリング責任者
孔口標高	7.07 m	角度	180°上 90° 下 0° 40.0°	方向	北 0° 270°西 90°東 180°南 89.0°
総掘削長	145.00 m	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90° 0.0°	使用機種	試錐機 / ハンマー落下用具 / エンジン / ポンプ

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) / 最大コア長 cm / RQD [%]	岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	(N)値	標準貫入試験 N値～深度	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L／分)	排水量(L／分)
				盛土	黒褐						0.00～0.39m：敷石である。 0.39～10.62m：盛土である。																
1					にぶい黄橙						0.39～0.92m：砂からなる。 0.92～1.33m：礫混じり砂からなる。 1.33～2.00m：砂からなる。	100							2/4	0	0／試掘	試掘／試掘	0.0	0	0.0	試掘 0	0
2											2.00～2.62m：シルト・礫混じり砂からなる。	100								600	116／ケーシング	シングルコアチューブ／メタルクラウン	20.0	30	0.0	無水 0	0
3											2.62～4.39m：礫混じり砂質シルトからなる。	100								780							
4																				300							
					浅黄橙						4.39～5.95m：砂礫からなる。	100								90		ブルアップダイヤビット		60	0.0	泥水 5	5
5					にぶい黄橙															60		ダブルコアダイヤビット			0.0	泥水	0
					にぶい橙							100								360		シングルコアチューブ／メタルクラウン		30	0.0	無水 0	0
																				54		ダブルアップダイヤビット ダブルコアダイヤビット		60	0.0	泥水 3	0
6					にぶい黄橙						5.95～8.30m：シルト混じり砂からなる。	100							2/5	720		シングルコアチューブ／メタルクラウン		30	0.0	無水 0	0
7												100								600							
8											8.30～8.58m：砂質シルトからなる。 8.58～9.52m：シルト混じり砂からなる。	100							2/6	720							
9					灰黄褐															540							
					にぶい黄橙																						
					灰黄褐							100															
					にぶい黄橙						9.52～10.62m：礫・シルト混じり有機質砂からなる。									660							

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事
	-1.07	10.62	埋土	にぶい黄橙 / 褐灰						
11			アプライト	にぶい橙	Eg	VIg	dg	ε	2	10.62～27.35m：アプライトである。径2～5mmの石英，長石，黒雲母の斑晶を5%程度含む。全体に風化を受け，褐色酸化を伴う。
					Cg	Vg	cg	γ		
					Dg	VIg	dg			
					Cg	Vg	cg			
					Dg	VIg	dg			
12					Cg	IVg / Vg	cg			12.00～12.12m：マンガン汚染が顕著に見られる。
				浅黄橙	Bg	IVg				
					Dg	VIg	dg	δ		12.37～12.49m：割れ目沿いに風化し，角礫状を呈する。
13					Cg	Vg / IVg	bg	γ		
						Vg	cg	δ	3	13.81～13.85m：砂混じり角礫状を呈し，灰白色粘土を挟む。
14					Dg	VIg	dg			14.22～14.38m：砂混じり角礫状を呈する。
					Cg	IVg / Vg	bg / cg	γ	2	
					Dg	VIg	dg	δ	3	
15					Cg	Vg	cg			
					Dg	VIg				
					Cg	Vg			2	
					Dg	VIg	dg		3	15.25～15.59m：角礫状～砂質細礫状を呈し，一部でシルト混じり砂や砂質シルトを挟む。
				にぶい橙	Cg	Vg	cg	γ	2	
					Eg	VIg	dg	δ	3 / 4	15.73～16.00m：角礫状～砂混じり細礫状を呈する。
16					Cg	Vg	cg	γ	2	
					Bg	IVg	bg			
17					Dg	VIg	dg	δ	3	17.00～17.17m：不規則な割れ目が発達し，砂混じり角礫状を呈する。
				明褐灰	Cg	Vg	cg	γ	2	
					Bg	IVg				
					Cg	Vg				
18					Bg	IIIg				
					Cg	Vg				
					Bg	IVg	bg			18.52～18.55m：傾斜15°，幅25mm程度で角礫状を呈する。上端・下端には不連続な褐～灰白色粘土を挟む。
19					Dg	VIg	dg	δ	3	19.34～19.47m：不規則な形状で割れ目沿いに吹付モルタルが分布する。
					Cg / Bg	IVg	cg	γ	2	

深度 (m)	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	RQD [%]
～11	(100)	4	[0]
11～12	(100)	9	[0]
12～13	(100)	10	[10]
13～14	(100)	12	[12]
14～15	(100)	8	[0]
15～16	(100)	4	[0]
16～17	(100)	10	[10]
17～18	(100)	19	[29]
18～19	(100)	15	[15]
19～	(100)	10	[10]

深度 (m)	岩級区分
10.62～15.0	CL'
15.0～16.0	D'
16.0～17.0	CM'
17.0～18.4	CL'
18.4～19.3	CM'
19.3～	CL'

掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)
2/ 6	660		シングルコアチューブ／メタルクラウン		30	0.0	無水 0	0
	180	116／ケーシング	ダブルコアチューブ／ダイヤモンドビット	20.0	60	0.0	泥水 5	5
2/ 8	70							
	59							
2/ 9	60							
	171					0.1	泥水 7	7
2/11	158					0.1	泥水 7	6

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) / 最大コア長 cm / RQD [%]	岩級区分	孔内水位(m)/測定月日	(N)値	(標準貫入)試験 (N値～深度)図	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm/時)	孔径(mm)/孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L/分)	排水量(L/分)
				アプライト	明褐灰	Cg	Vg	cg	γ	2										158	116/ケーシング	ダブルコアチューブ/ダイヤモンドビット	20.0	60	0.1	泥水7	6
					にぶい橙	Dg	VIg	dg	δ	3	20.39～20.64m：低角度割れ目が発達し，角礫状～砂状を呈し，一部で灰白色粘土を挟む。	4 [0]	CL'														
21						Cg	Vg	cg	γ																		
						Dg	VIg		δ																		
						Cg	IVg		γ			6 [0]								168							
22						Dg	Vg		δ										2/11								
						Bg	IVg	bg		2		9 [0]												0.1	泥水7	5	
						Cg	Vg	cg																			
23						Bg	IVg	bg	γ				CM'							175				60			
						Cg						1 [11]															
						Bg																					
24						Cg	Vg	cg					CL'														
						Dg	VIg	dg	δ	3	24.10～24.50m：変質し，シルト・粘土混じり礫状を呈する。灰白色粘土が網目状に分布するが，原岩組織は残る。	8 [0]	D'						120							
						Eg				4	●24.50～24.67m：破砕部																
25						Cg	Vg	cg	γ	2	24.50～24.65m：粘土・砂質角礫状部(Hb)。上端不明瞭，下端5°で直線的。灰白色粘土が網目状に分布するが，原岩組織は残る。やや軟質で，明褐灰色を呈する。 24.65～24.67m：灰白色の砂質粘土状部(Hc-2)。下端10°で最も直線的。軟質。幅15～20mm。	3 [0]								106					0.1	泥水5	3
						Dg					24.67m：明黄褐色粘土状部(Hc-1)。軟質。幅6mm。 24.67～24.68m：傾斜10°の割れ目沿いにマンガン濃集し，絹雲母が晶出する。		CL'														
						Cg						9 [0]							2/12								
						Dg					25.07m：傾斜5°で幅0.5mmの灰白色粘土を挟み，上端側は幅10mmで緑色化し，絹雲母が晶出する。									164							
27						Cg																					
						Dg	VIg			3																	
	-13.88	27.35				Cg	IVg				27.22～27.23m：傾斜20°で幅8～12mmの灰白色砂質粘土を挟む。	9 [0]												120	0.0	泥水5	0
				コンクリート							27.35～29.00m：試掘坑埋戻材のコンクリートである。																
28																				106							
29	-15.15	29.00		アプライト	にぶい橙	Dg	VIg	dg	δ	2	29.00～93.59m：アプライトである。径2～5mmの石英，長石，黒雲母の斑晶を5%程度含む。一部の割れ目沿いに褐色酸化を伴う。	3 [0]	D'						2/13	160				60	0.0	泥水4	0

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) / 最大コア長 cm / RQD [%]	岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	(N)値	(標準貫入)試験 (N値～深度)図	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L／分)	排水量(L／分)
31				アプライト	にぶい橙	Dg, Cg, Dg, Eg, Cg, Dg, Cg, Dg, Cg, Dg, Cg, Eg, Dg, Cg, Dg, Eg	Ⅳg, Ⅵg, Ⅴg, Ⅵg, Ⅳg, Ⅴg, Ⅵg, Ⅴg, Ⅵg, Ⅵg, Ⅴg, Ⅵg, Ⅴg, Ⅳg, Ⅴg, Ⅵg	cg, dg, cg, dg, cg, dg	γ, δ, γ, δ, γ, δ, γ, δ, γ, δ, γ, δ	2, 3, 2, 3, 2, 3, 2, 3, 2, 3, 2, 3	31.53～31.59m：砂混じり細礫状を呈し，一部で灰黄色粘土を挟む。 32.82～33.09m：角礫状～砂質細礫状を呈し，一部で褐色粘土を挟む。 33.20～34.10m：傾斜20～25°の割れ目に沿って所々，変質し，細礫状を呈する。		CL'					2/13 2/22	160, 171, 84, 58, 60	116／ケーシング	ダブルコアチューブ／ダイヤモンドビット	20.0	60, 120, 60	0.0	泥水4	0
32																											
33																											
34																											
35	-19.76	35.03																									
36				コア欠如	明褐灰						34.92～35.03m：変質し，角礫状～礫混じり砂質粘土状を呈する。 35.03～36.50m：掘削により乱した礫状コアからなる。							2/23	53							
37	-20.89	36.50		アプライト	浅黄橙	Dg, Eg, Dg, Eg, Dg, Eg, Dg, Eg, Dg, Eg, Dg, Cg, Eg	Ⅵg, Ⅴg	dg, cg, dg, cg, dg, cg, dg, cg	δ, γ	3, 4, 3, 4, 3, 4, 3, 4, 3, 2, 3	36.50～38.69m：全体に強く変質し，角礫状～粘土混じり砂質礫状を呈する。所々，灰白色粘土が網目状に分布する。原岩組織を残すことが多い。 ●38.69～38.72m：破砕部 砂質粘土状部(Hc-2)。上端10°で波打つ，下端10°で直線的な幅6mmの淡黄褐色粘土を挟む。軟質。全体に淡黄褐色を呈する。幅29mm。 38.72～39.11m：変質し，砂混じり礫状～角礫状を呈する。所々，灰白色や黄褐色粘土を伴う。原岩組織は残る。 39.32～42.24m：強く風化・変質し，粘土・砂質礫状～角礫状を呈する。所々，灰白色粘土が網目状に分布する。原岩組織を残すことが多い。		D'					2/25 2/27	51, 27, 30, 29				30	0.1	泥水4	0
38					明褐灰																						
39																											

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事		コア採取率 (%) 最大コア長 cm RQD [%]	岩級区分		孔内水位(m)/測定月日	(N)値	(標準貫入)試験 (N値～深度)図	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm/時)	孔径(mm)/孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L/分)	排水量(L/分)

標尺 (m): 41, 42, 43, 44, 45, 46, 47, 48, 49

岩種区分: アプライト

色調: 明褐灰 / 明黄褐 / 明褐灰 / 浅黄橙 / にぶい橙 / 橙 / 明褐灰 / にぶい橙

硬軟: Eg, Dg / Eg / Dg, Eg, Dg / Eg / Dg, Eg / Dg / Eg / Dg, Eg / Dg / Eg, Dg / Eg / Dg, Eg / Dg / Eg / Dg / Eg, Dg / Eg / Dg / Cg / Dg

コア形状: VIg / Vg / VIg / Vg / VIg / Vg, VIg / Vg / VIg

割れ目の状態: dg, cg / dg / cg / dg / cg / dg / cg / dg / cg / dg / cg, dg / cg / dg, cg / dg / cg, dg / cg / dg / cg / dg / cg / dg / cg / dg / cg / dg / cg

風化: δ / ε / δ / γ / δ / γ / δ / ε / γ / δ / γ

変質: 3 / 4 / 3 / 4 / 3 / 4 / 3 / 4 / 3 / 4 / 3 / 4 / 3 / 4 / 3 / 4 / 3 / 4 / 3 / 4 / 3 / 4 / 3 / 4 / 3 / 2 / 3

記事:

●42.24～42.31m：破砕部
灰白色の砂質粘土状部(Hc-2)。上端65° で直線的な幅2mmの軟質な灰白色粘土を挟む。下端は不明瞭。軟質。幅10～25mm程度。
42.31～42.68m：角礫状～粘土質砂状を呈する。
●42.68～42.80m：破砕部
粘土質礫状～礫混じり砂状部(Hb)。上端10° で漸移的, 下端35° で直線的なフィルム状の浅黄橙色粘土を挟む。やや硬質。褐色を呈する。
42.80～44.07m：粘土・砂混じり角礫状を呈し, 一部で灰白色粘土が網目状に分布する。
44.30～45.00m：粘土・砂混じり角礫状を呈し, 一部, 砂質粘土状を呈する。上部は褐色汚染が顕著である。
45.37～45.47m：粘土・礫混じり砂状を呈する。
46.34～46.47m：灰白色粘土が網目状に分布し, 粘土混じり砂質角礫状を呈する。
46.59～47.63m：主に粘土混じり砂質角礫状を呈する。所々, 灰白色粘土が網目状に分布するが, 原岩組織は残る。
48.41～48.47m：上端50° , 下端20° で砂質角礫状を呈し, 間に幅3～8mmの暗赤色粘土を挟む。いずれも固結している。
48.72～48.92m：変質し, 粘土・砂質角礫状を呈する。
49.62～49.92m：硬質で, 岩片状コアからなる。

コア採取率 / 最大コア長 / RQD (scale 0 50 100): 1 [0] (100); 1 [0] (100); 4 [0] (100); 3 [0] (100); 2 [0] (100); 2 [0] (100); 1 [0] (100); 2 [0] (100); 1 [0] (100); 3 [0] (100)

岩級区分: D' / CL' / D' / CL' / D' / CL' / D'

(標準貫入)試験 (N値～深度)図: 0 10 20 30 40 50

掘進月日: 2/27, 2/28, 3/ 1, 3/ 2, 3/ 4, 3/ 5, 3/ 6

掘進速度 (cm/時): 29, 42, 41, 37, 34, 30, 39, 38, 40, 47, 73, 74, 83

孔径(mm)/孔壁保護: 116/ケーシング

コアチューブ/ビット: ダブルコアチューブ/ダイヤモンドビット

給圧: 20.0

回転数 (rpm): 30, 40, 60

送水圧 (MPa): 0.1, 0.1, 0.2, 0.1

送水量 (L/分): 泥水4, 泥水3, 泥水3, 泥水3

排水量 (L/分): 0, 0, 0, 0

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) / 最大コア長 cm / RQD [%]	岩級区分	孔内水位(m)/測定月日	(N)値	(標準貫入)試験 (N値～深度)図	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm/時)	孔径(mm)/孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L/分)	排水量(L/分)
51				アプライト	にぶい橙	Dg	Vg	cg	γ	3	50.76m, 50.85m：傾斜15～20°で幅1～7mmの灰白色粘土を挟む。周辺は幅7～10mm程度で緑色化する。	8 [0] (100)	D'							83	116/ケーシング	ダブルコアチューブ/ダイヤモンドビット	20.0	60	0.1	泥水3	0
							IVg						CL'														
							Vg					4 [0] (100)															
52						Eg	VIg	dg		4	51.63～52.09m：強く変質し，粘土・砂質角礫状を呈する。灰白色粘土が網目状に分布する。		D'					3/6	82							
						Dg	Vg	cg		3	52.28～52.68m, 52.97～53.20m：不規則な割れ目が発達し，砂混じり角礫状を呈する。	5 [0] (100)															
							VIg	dg																			
53						Cg	Vg	cg					CL'														
						Dg	VIg	dg																			
						Cg	Vg	cg		2		5 [0] (100)															
54						Eg	VIg			3										80							
						Dg	Vg						D'														
						Eg	VIg	dg		4	54.20～54.60m：強く変質し，粘土・砂質角礫状を呈する。下端に傾斜22°で幅2mmの赤灰色粘土を挟み，上端側は幅5mm程度でマンガン汚染が見られる。	2 [0] (100)							82							
						Cg	Vg	cg		3																	
						Dg																					
55						Eg	VIg	dg																			
						Cg	Vg	cg		2																	
						Dg				3																	
						Eg	VIg	dg		4	55.30～55.95m：粘土混じり角礫質砂状～砂混じり礫状を所々挟む。	3 [0] (100)						3/11								
						Dg				3																	
						Cg	Vg	cg		2																	
56						Dg	VIg	dg		3																	
						Cg	Vg	cg		2	56.44～56.45m：傾斜11°で幅5～12mmの灰白色粘土質砂を挟む。	5 [0] (100)	CL'						81							
						Dg	VIg			3																	
57						Cg	Vg	cg		2																	
						Dg	VIg				57.20～57.42m：傾斜10°程度で幅3mm以下の褐色粘土を挟む割れ目が3条分布する。	3 [0] (100)														
						Cg	Vg																				
						Dg				3																	
						Cg				2	57.68～57.88m：微細な割れ目が発達し，酸化汚染・マンガン汚染が顕著に見られる。															
58					灰白	Eg	VIg	dg		4	58.02～58.64m：強く変質し，粘土・砂質角礫状を呈する。灰白色粘土が網目状に分布する。下端には傾斜40°で幅1～3mmの灰白色粘土を挟む。	3 [0] (100)	D'					3/12	80							
					淡橙	Cg	Vg	cg		2			CL'														
59						Eg	VIg	dg		4	58.92～59.05m, 59.43～59.48m：緑色変質が顕著で，割れ目に沿って灰白色粘土を挟む。														
						Cg	Vg	cg		2																	
						Eg		dg		3																	
						Cg		cg		2																	
						Eg		dg		4																	
					にぶい橙	Dg	VIg	cg	δ	3	59.50～59.51m：傾斜15°で幅2～10mmの黄褐色粘土を挟む。59.51～60.13m：微細な割れ目が発達し，酸化汚染・マンガン汚染が顕著に見られる。	2 [0] (100)	D'						79							

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) / 最大コア長 cm / RQD [%]	岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	(N)値	(標準貫入)試験 (N値～深度)図	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm/時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L/分)	排水量(L/分)
61				アプライト	にぶい橙	Dg Eg Dg Cg Eg Dg	Vg	cg dg cg dg cg	γ δ	3 4 3 4 2 4	60.13～60.37m：粘土・角礫質砂状を呈する。下部は緑灰色を呈する。 60.56～60.65m：灰白色粘土化する。 60.87～61.08m：脱色変質し，下部はマンガン汚染が顕著に見られる。 61.08～61.65m：全体に脱色変質し，灰白色粘土が網目状に分布する。	2 [0]						3/12	79							
62					灰白	Eg	Vg	dg	γ	4	61.58～61.59m：傾斜17°で幅3～8mmの灰白色粘土を挟む。 61.77～62.40m：粘土・砂質角礫状を呈するが，原岩組織は残る。 62.08～62.12m：傾斜10～20°の割れ目に沿ってマンガン汚染が顕著に見られる。割れ目には幅1mm以下の暗褐色粘土を挟む。 62.52～62.81m：褐色角礫状を呈する。 63.01～63.67m：所々，黄～黄褐色の粘土混じり角礫質砂状を呈する。	2 [0]						3/13	82							
63						Cg Eg Dg Eg Dg Eg Dg Eg Dg	Vg	cg dg cg dg cg dg cg dg	δ γ	3 4 3 4 3		2 [0]	D'											0.1	泥水3	0
64	-42.42	64.60			淡橙	Cg Dg Cg Dg	Vg Vg Vg Vg	cg		3		1 [0]								89							
65	-42.66 -42.75	64.92 65.03		コア欠如 アプライト		Eg	Vg	dg	γ	4	64.60～65.34m：掘削により乱した角礫状コアからなる。	1 [0]	D						3/14		86／セメンティング	ダブルコアチューブ／ダイヤモンドビット	20.0	60			
66	-42.98	65.34		コア欠如		Dg Eg Dg Eg	Vg	dg	γ δ γ δ	2 3 4	65.80～66.42m：砂混じり細礫状～粘土・角礫質砂状を呈する。	2 [0]	D'							88							
67				アプライト	明褐灰	Cg Dg Cg	Vg Vg Vg	cg	γ	2 3 2		3 [0]	CL'						3/21	56				0.0	泥水3	3
68						Dg Eg	Vg	dg		3 4	67.73～69.28m：角礫状を呈する。	3 [0]	D'														
69						Cg Dg Cg Dg	Vg	cg dg cg		3 2		3 [0]	CL'						3/22	70				0.0	泥水4	4
						Dg	Vg	dg	δ	3 4	69.68～70.03m：風化・変質を強く受け，粘土・砂混じり角礫状を呈する。褐色汚染が顕著に見られる。69.87～69.94mには傾斜60°程度で幅1～3mmの暗灰色粘土を不規則に挟む。		D'							64				0.1	泥水4	4

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	岩種区分	色調	岩級区分	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径(mm)/孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)
			アプライト	明褐灰	D'	3/22	64	86/セメンティング	ダブルコアチューブ/ダイヤモンドビット	20.0	60	0.1	泥水 4	4
71							63							
72						3/23	64							
73					CL'									
74						3/27	67							
75					D'							0.1	泥水 4	3
76	-51.57	76.55		灰白			71							
	-51.76	76.80	コア欠如			3/28								
77			アプライト	明褐灰			73							
78					D'		60							
79				浅黄橙		3/29	88							
				明褐灰			90							

コア採取率(%)／最大コア長(cm)／RQD(%): 2 [0] (100), 4 [0] (100), 2 [0] (100), 2 [0] (100), 3 [0] (100), 6 [0] (100), 5 [0] (75), 3 [0] (100), 3 [0] (100), 2 [0] (100)

記事

70.15～70.69m：粘土混じり砂質角礫状を呈する。所々，灰白色粘土が網目状に分布する。

●70.94～71.83m：破砕部
70.94～71.31m：砂・粘土質角礫状部(Hb)。上端29°でやや不明瞭。やや軟質。灰白色粘土が網目状に分布する。にぶい橙色を呈する。
71.31～71.33m：砂混じり粘土状部(Hc-1)。上端62°で波打つ，下端69°でやや直線的。やや軟質。幅15～20mm。明褐灰～灰白色を呈する。
71.33～71.40m：細礫混じり砂質粘土状部(Hc-2)。下端は凹凸が著しい。やや軟質。幅20～40mm程度。明赤灰色を呈する。
71.40～71.49m：砂・粘土質角礫状部(Hb)。下端23°でやや不明瞭。やや軟質。灰白色粘土が網目状に分布する。褐灰色を呈する。
71.49～71.64m：粘土・砂混じり角礫状部(Hj)。下端13°で直線的。硬質。褐灰色を呈する。
71.64～71.83m：粘土混じり砂質角礫状部(Hb)。下端13°で直線的な幅1mmの灰白色粘土を挟む。やや硬質。灰白色粘土が局所的に分布する。褐灰色を呈する。

72.28～72.72m：変質し，砂・粘土質角礫状を呈する。

●72.72～73.09m：破砕部
72.72～72.75m：細礫混じり砂質粘土状部(Hc-2)。上端28°で波打つ，下端49°で幅2mmの軟質な明赤灰色粘土を挟む。粘土は不連続である。軟質。幅20～30mm程度。灰白色を呈する。
72.75～73.09m：粘土混じり砂質角礫状部(Hb)。下端27°で幅2mmの軟質な明赤灰色粘土を挟む。粘土は不連続である。やや軟質。灰白色粘土が網目状に分布する。灰白色を呈する。

73.40～73.47m：粘土混じり砂質角礫状を呈する。境界は不明瞭。

●73.70～73.83m：破砕部
粘土・砂混じり角礫状部(Hj)。上端36°で不明瞭，下端43°で直線的な幅6mmの明赤灰～灰白色粘土(Hc-1)を挟む。粘土は軟質である。やや硬質で灰白色粘土が網目状に分布する。灰白色を呈する。

73.83～74.57m：変質し，砂混じり～粘土・砂質角礫状を呈する。灰白色粘土が網目状に分布する。

●74.57～74.68m：破砕部
74.57～74.58m：明赤灰色の砂混じり粘土状部(Hc-1)。上端59°で波打つ，下端62°で直線的。幅6mm。軟質。
74.58～74.68m：砂・粘土質角礫状部(Hb)。下端の傾斜67°で不明瞭。やや軟質で灰白色粘土が網目状に分布する。灰白色を呈する。

75.58～75.70m：中角度の割れ目沿いにマンガン汚染が見られる。
75.76～75.87m：変質し，粘土・角礫質砂状を呈する。灰白色粘土が網目状に分布する。
76.32～76.50m：粘土・砂混じり細礫状を呈する。
76.55～76.80m：掘削により乱した角礫状コアからなる。
76.80～77.44m：微細な割れ目が発達し，粘土混じり砂質角礫状を呈する。所々，灰白色粘土が網目状に分布するが，原岩組織は残る。
77.44～77.72m：強く変質し，粘土・砂質角礫状を呈する。灰白色粘土が網目状に分布する。
77.94～78.02m：粘土・砂質細礫状を呈する。
78.25～78.51m：砂質細礫状～礫・粘土質砂状を呈する。下部は灰白色粘土が網目状に分布する。
78.62～79.66m：全体に強く変質し，粘土・砂質角礫状を主とする。上部は灰白色粘土化が顕著である。

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	岩種区分	色調
81〜84			アプライト	明褐灰
				灰白
	-57.51	84.30	コア欠如	
	-57.69	84.54	アプライト	明褐灰
85〜89	-61.43	89.42	コア欠如	灰白
	-61.64	89.69	アプライト	灰白

硬軟（上から）: Dg, Cg, Dg, Eg, Dg, Eg, Dg, Cg, Dg, Eg, Cg, Dg, Eg, Dg, （コア欠如）, Dg, Eg, Dg, Eg, Dg, Eg, Dg, Cg, Dg, Cg, （コア欠如）, Eg, Cg

コア形状（上から）: VIg, Vg, VIg, Vg, VIg, Vg, VIg, Vg, VIg, Vg, VIg, Vg, VIg, （コア欠如）, VIg, Vg, VIg, Vg, VIg, （コア欠如）, VIg, Vg

割れ目の状態（上から）: cg, dg, cg, dg, cg, dg, cg, dg, cg, （コア欠如）, cg, dg, cg, dg, cg, dg, cg, （コア欠如）, dg, cg

風化（上から）: δ, γ, δ, γ, （コア欠如）, δ, γ, δ, γ, （コア欠如）, β

変質（上から）: 3, 2, 3, 4, 3, 4, 3, 2, 3, 2, 3, 4, 3, （コア欠如）, 3, 4, 3, 4, 3, 4, 3, 4, 3, 2, 3, 2, （コア欠如）, 3, 2

記事

81.12〜81.50m：粘土混じり砂質角礫状を呈する。

81.88〜82.28m：主に粘土・砂質角礫状を呈する。所々，灰白色粘土が網目状に分布する。

83.59〜84.18m：強く変質し，粘土・砂質角礫状を呈する。灰白色粘土が網目状に分布する。

84.30〜84.54m：掘削により乱した角礫状コアからなる。

●84.89〜85.12m：破砕部
84.89〜84.97m：粘土・砂質角礫状部(Hb)。上端10°で波打つ，下端22°で直線的。軟質。灰白色粘土が網目状に分布する。酸化汚染が顕著で褐色を呈する。
84.97〜85.12m：粘土・砂混じり角礫状部(Hj)。下端64°で漸移的。灰白色粘土が網目状に分布するが，原岩組織は残る。やや硬質。にぶい橙色を呈する。

85.12〜86.00m：粘土混じり砂質角礫状を呈する。

●86.18〜86.23m：破砕部
86.18〜86.21m：明赤灰色粘土状部(Hc-1)。上端63°で波打つ，下端67°で直線的。軟質。幅8mm。
86.21〜86.23m：粘土混じり礫状部(Hj)。下端は不明瞭。やや軟質。灰白色粘土が網目状に分布する。にぶい黄橙色を呈する。

86.23〜88.30m：全体に変質し，主に粘土混じり砂質角礫状を呈する。灰白色粘土が網目状に分布する。

●88.30〜88.40m：破砕部
粘土・砂質角礫状部(Hb)。上端22°で幅1〜2mmの灰白色粘土を挟むが，粘土は不連続。下端57°で直線的。幅1mmの軟質な灰白色粘土(Hc-1)を挟む。全体に灰白色粘土が網目状に分布し，原岩組織が残る。やや軟質。灰白色を呈する。

88.66〜88.76m：主に角礫状を呈する。灰白色粘土や酸化汚染が見られる。

89.42〜89.69m：掘削により乱した角礫状コアからなる。

89.69〜89.86m：粘土混じり礫状を呈する。灰白色粘土が網目状に分布するが，原岩組織は残る。下端は傾斜23°で幅1〜2mmの灰白色粘土を挟み，周辺に黄鉄鉱が晶出する。

コア採取率(%)／最大コア長(cm)／RQD[%]（上から）: (100)/5/[0], (100)/3/[0], (100)/6/[0], (100)/3/[0], (76)/2/[0], (100)/1/[0], (100)/2/[0], (100)/1/[0], (100)/5/[0], (73)/4/[0]

岩級区分（上から）: D', CL', D', CL', D', （コア欠如）, D', CL', D', （コア欠如）, CL'

（標準貫入）試験 （N値〜深度）図: 記載なし

掘進月日	掘進速度 (cm/時)
3/29	90
3/30	69
	66
4/ 3	68
4/ 4	78
	74
	78

孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)
86／セメンティング	ダブルコアチューブ／ダイヤモンドビット	20.0	60	0.1	泥水4	3

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) / 最大コア長 cm / RQD [%]	岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	(N)値	(標準貫入)試験 (N値～深度)図	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L／分)	排水量(L／分)
91				アプライト	灰白	Dg	Vg	cg	β	3	91.19m：傾斜22°で幅0.5mmの暗緑灰色粘土を挟み，周辺は幅15mm程度で緑色化している。黄鉄鉱が晶出する。 91.40～91.91m：粘土混じり砂質角礫状を呈し，灰白色粘土が網目状に分布する。 92.23～92.36m：粘土・砂質角礫状～粘土・礫質砂状を呈する。上部には灰白色粘土が網目状に分布する。	4 [0] (100)	CL'					4/4	78	86／セメンティング	ダブルコアチューブ／ダイヤモンドビット	20.0	60				
						Cg																					
						Dg	Vlg	dg		4		6 [0] (100)	D'						4/5	76							
92						Eg																					
						Dg		cg		3										75							
						Eg		dg		4																	
						Cg		cg				7 [0] (100)								72							
					明褐灰	Bg	Vg	bg		2														0.1	泥水4	3	
93						Cg	Vlg			3																	
						Bg																					
						Cg	Vg	cg		2																	
						Dg	Vlg			3		6 [0] (100)	CL'														
	-64.62	93.59				Cg	Vg			2																	
						Dg	Vlg			3	93.59～109.65m：花崗斑岩である。径2～10mmの石英，長石，黒雲母の斑晶を10～50%程度含む。アプライトとは漸移的である。 94.10～94.31m：粘土・砂質角礫状を呈する。所々，灰白色粘土が網目状に分布する。 94.59～94.91m：主に粘土・砂質角礫状を呈し，下部には灰白色粘土が網目状に分布する。															
						Cg	Vg			2																	
						Dg	Vg			3																	
94						Bg	Vg			2																	
						Eg	Vlg	dg		4		6 [0] (100)															
						Cg	Vg	cg		3																	
						Dg				2																	
						Eg	Vlg	dg		3																	
						Cg	Vg			4																	
95						Dg	Vlg	cg	γ	2																	
						Cg	Vlg			3	95.22～95.51m：部分的に粘土・角礫質砂状を呈するが，多くは原岩組織が残る。															
						Cg	Vg			4																	
						Eg		dg		3		4 [0] (100)							4/6								
						Dg		cg																			
						Eg		dg		4																	
96						Dg	Vlg	cg		3			D'							76							
						Eg		dg		4	96.46～96.55m：粘土混じり砂質角礫状を呈する。	2 [0] (100)															
						Dg		cg		3																	
						Eg		dg		4																	
97						Dg		cg		2																	
							Vg													86				0.1	泥水4	4
						Cg						10 [10] (100)	CL'														
					浅黄橙	Dg	Vlg			3																	
98						Cg				2	●97.76～97.78m：破砕部 明緑灰色の細礫混じり砂質粘土状部(Hc-2)。幅9mm程度。軟質。上端30°で幅1.5mmの軟質な暗緑灰色粘土を挟む。面は波打つ。下端32°で直線的な幅0.5mmの軟質な暗緑灰色粘土を挟む。 98.46～98.86m：長石の緑泥石化が目立つ。 98.86～98.93m：砂混じり細礫状を呈する。 98.90～98.93m：暗緑灰色を呈し，白色鉱物脈を伴う。																		
						Dg	Vg			3																	
					淡赤橙	Cg		bg	β	2		6 [0] (100)	CM'						4/13	85				0.3	泥水4	4	
						Dg	Vg			3																	
99						Cg		cg		2										83							
					褐灰	Dg	Vg		γ	3		7 [0] (100)	CL'														
						Cg				2	99.76～99.77m：傾斜33°の割れ目に幅2～10mmの灰白色砂質粘土を挟む。															

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) / 最大コア長 cm / RQD [%]	岩級区分	孔内水位(m)/測定月日	(N)値	(標準貫入)試験 (N値～深度)図	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm/時)	孔径(mm)/孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L/分)	排水量(L/分)
101–109	-76.93	109.65		花崗斑岩	褐灰 / 灰黄褐 / 明赤灰 / にぶい橙 / 明赤灰 / 赤灰	Cg, Dg, Eg, Bg	Ⅴg, Ⅵg, Ⅳg, Ⅲg	cg, dg, bg	γ, β	2, 3, 4	100.33～100.59m：微細な割れ目が発達し，マンガンが付着することが多い。 100.59～100.66m：強く変質し，灰白色の粘土・細礫質砂状を呈する。 101.01～101.21m：低角度の割れ目が発達し，全体にマンガン汚染が顕著である。上端には幅6～8mmの緑灰～灰白色の粘土を挟む。 101.39～101.43m：幅30mm程度で緑色化・珪化している。 101.75～101.83m：砂混じり細礫状を呈する。下端には幅12mm以下の不連続な灰白色砂質粘土を挟む。 102.32～102.37m：マンガンが濃集する。 102.63～102.71m：変質し，灰白色粘土が網目状に分布し，角礫状を呈する。 103.00～103.21m：強く変質し，灰白色粘土が網目状に分布する。103.12mには傾斜0°で幅10mm程度の褐色礫質砂を挟む。周囲はわずかに緑色化し，絹雲母が晶出する。 103.70m：傾斜0°で幅10mm程度が細片化し，酸化汚染が見られる。不連続な灰白色粘土を伴う。 104.43～104.60m：粘土・砂質角礫状を呈する。下部は灰白色粘土が網目状に分布する。 104.68～105.00m：全体にマンガン汚染が見られ，104.93m以深はマンガンが濃集し，花崗斑岩が礫状に分布する。固結している。 105.03～105.58m：変質し，やや軟質で，微細な割れ目に灰白色粘土を挟む。 105.07～105.12m：不規則な形状でマンガン濃集部が注入する。 105.21m：傾斜5°で幅3mm以下の灰赤色粘土を挟む。 105.22m：傾斜20°で幅1mmの黒色粘土を挟む。 105.72～106.16m：強く変質し，粘土混じり砂質角礫状を呈する。106.05～106.09mには淡緑灰色の砂質粘土を挟む。 106.32m：傾斜35°の割れ目周辺が幅12mm以下で緑色化する。 106.58～107.27m：砂質角礫状を呈し，割れ目沿いの褐色化が顕著である。 107.27～107.39m：強く変質し，粘土混じり砂質角礫状を呈する。灰白色粘土が網目状に分布する。 107.68～107.87m：粘土・砂混じり角礫状を呈する。 108.12m：傾斜10°で幅1～2mmの青灰色粘土を挟む。 108.64～108.89m：角礫状及び細礫質砂状を呈する。 109.06～109.60m：割れ目が少なく，硬質なコアからなる。 109.31～109.33m：傾斜20～26°で幅6～12mmの角礫混じり砂を挟む。	5 [0], 3 [0], 6 [0], 12 [12], 3 [0], 13 [13], 6 [0], 5 [0], 5 [0], 7 [0] / (100)	CL', D', CL', D', CL', CM'			0 10 20 30 40 50			4/13, 4/15, 4/16	83, 114, 133, 145, 141	86／セメンティング	ダブルコアチューブ／ダイヤモンドビット	20.0	60	0.3, 0.4, 0.4	泥水4, 泥水4, 泥水4	4, 4, 3
				アプライト	明褐灰	Dg, Eg, Bg	Ⅵg, Ⅳg	cg, dg, bg		3, 2	109.65～111.20m：アプライトである。 径2～8mmの石英，長石，黒雲母の斑晶を5%程度含む。 109.69～109.75m：不規則な形状で砂混じり角礫状を呈する。																

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) / 最大コア長 cm / RQD [%]	岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	(N)値	(標準貫入)試験 (N値～深度)図	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L／分)	排水量(L／分)
111	-78.11	111.20		アプライト	明褐灰	Bg	Ⅳg	bg	β	2	110.32～110.36m：傾斜24～30°，幅40mm程度で角礫状を呈する。 110.49～110.66m：変質し，割れ目に沿って砂状化するが，原岩組織は明瞭に見られる。	8 [0]	CM'						4/16	141	86／セメンティング	ダブルコアチューブ／ダイヤモンドビット	20.0	60	0.4	泥水4	3
						Cg																					
						Dg	Ⅵg	cg	γ	3																	
						Bg	Ⅳg	bg	β	2																	
						Cg	Ⅴg	cg	γ	3	111.11～111.38m：変質し，灰白色を呈する。原岩組織は明瞭に見られる。111.37mに傾斜20度で幅3mm以下の不連続な灰白色粘土を挟む。	15 [15]	CL'							103							
					灰白	Dg																					
						Cg																					
112					明褐灰	Bg	Ⅳg	bg	β	2	111.20～116.50m：花崗斑岩である。径2～15mmの石英，長石，黒雲母の斑晶を40～50%程度含む。																
				花崗斑岩		Cg	Ⅴg Ⅳg Ⅴg	cg	γ																		
						Bg	Ⅳg	bg				7 [0]															
113						Eg	Ⅵg	cg		4	112.70～112.85m：強く変質し，砂質角礫状を呈する。灰白色シルトが網目状に分布するが，原岩組織は残る。下端22°で幅1～2mmの暗灰色シルトを挟み，黄鉄鉱が晶出する。		CM'														
						Bg	Ⅳg Ⅴg Ⅳg Ⅴg Ⅳg	bg	β			13 [13]															
114						Cg	Ⅴg	cg	γ	2										109							
						Bg	Ⅳg	bg																			
115						Cg	Ⅴg	cg				9 [0]															
						Eg	Ⅳg Ⅵg		β	3	115.47～115.52m：変質し，砂混じり角礫状を呈する。灰白色粘土が局所的に分布する。 115.74～115.80m：砂混じり角礫状を呈する。原岩組織は残る。	8 [0]															
						Cg	Ⅳg																				
						Dg	Ⅵg																				
						Cg	Ⅳg	bg																			
116						Bg	Ⅴg	cg																			
						Cg	Ⅳg	bg	γ																		
							Ⅴg	cg				7 [0]							4/17								
	-82.17	116.50		アプライト	褐灰	Bg	Ⅳg	bg		2	116.50～122.62m：アプライトである。 径2～10mmの長石，石英を5%程度含む。 117.07～117.12m：砂混じり角礫状を呈する。 117.17～117.22m：角礫状を呈する。 117.48～117.68m：砂混じり角礫状を呈するが，原岩組織は残る。		CL'															
117						Cg	Ⅴg													117							
						Bg	Ⅵg																				
						Dg	Ⅵg	cg																			
						Bg	Ⅴg	bg				4 [0]															
					褐灰	Dg	Ⅵg	cg																			
					黄灰	Cg	Ⅴg																				
118						Bg																					
						Eg	Ⅵg	dg		4	117.99～118.14m：強く変質し，砂質角礫状を呈する。下部は緑色化する。															
					オリーブ灰	Cg	Ⅴg	cg	β			7 [0]															
						Bg																					
						Cg	Ⅳg																				
						Bg	Ⅴg																				
							Ⅳg	bg																			
						Cg																					
119						Dg		cg																			
					褐灰	Cg	Ⅴg	bg		2		7 [0]															
								cg																			
						Bg	Ⅳg	bg											4/18	98					0.2	泥水4	2

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) / 最大コア長 cm / RQD [%]	岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	(N)値	(標準貫入)試験 (N値～深度)図	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L／分)	排水量(L／分)
121				アプライト	褐灰	Bg	Ⅳg	bg		2	120.62m：傾斜32°で幅2mm以下の暗緑灰色シルトを挟み，黄鉄鉱が晶出する。	5 [0] (100)	CL'						4/18	98	86／セメンティング	ダブルコアチューブ／ダイヤモンドビット	20.0	60	0.2	泥水4	2
						Cg	Ⅴg	cg																			
						Bg		bg																			
						Eg	Ⅵg	dg		3																	
						Bg	Ⅳg	bg		2	121.18～121.28m：変質し，粘土混じり砂質角礫状を呈する。原岩組織は残る。灰白色粘土が局所的に分布する。	13 [13] (100)	CM'													
							Ⅴg																				
							Ⅳg																				
122						Cg	Ⅴg																				
					緑灰	Dg		cg		3	122.32～122.62m：変質し，砂混じり角礫状を呈する。幅1～2mmの暗緑灰色粘土や網目状の灰白色粘土を伴う。	9 [0] (100)	CL'													
	-86.86	122.62			にぶい橙	Cg	Ⅳg	bg		2										95							
123				花崗斑岩	明褐灰	Dg	Ⅴg	cg		3	122.62～123.85m：花崗斑岩である。径2～10mmの長石，石英，黒雲母の斑晶を10～20%程度含む。																
					褐灰	Cg	Ⅳg	bg	β	2		8 [3] (100)	CM'														
							Ⅴg																				
						Bg	Ⅳg																				
						Cg	Ⅴg	cg																			
	-87.80	123.85					Ⅳg			3	123.85～124.64m：アプライトである。径2～10mmの長石，石英の斑晶を5%程度含む。																
124				アプライト	明オリーブ灰	Eg	Ⅵg	dg		4																	
					明褐灰	Cg	Ⅴg	cg		3	124.02～124.09m：明オリーブ灰色に変質し，粘土混じり砂質角礫状を呈する。灰白色粘土が局所的に分布し，原岩組織は残る。	6 [0] (100)	CL'						4/24	106				0.3	泥水4	3
					浅黄	Dg																					
	-88.41	124.64				Cg					●124.39～124.42m：破砕部 暗緑灰色の粘土・砂質角礫状部(Hb)。やや硬質。幅21mm。上端43°でやや軟質なフィルム状の暗緑灰～緑黒色粘土(Hc-1)を挟む。下端47°で凹凸し，やや硬質な幅1～3mmの暗緑灰色シルトを挟む。																	
125				花崗斑岩	にぶい橙		Ⅳg	bg		2		6 [0] (100)	CM'														
					褐灰	Bg	Ⅴg																				
					明褐灰		Ⅳg																				
							Ⅴg																				
							Ⅳg																				
126						Cg	Ⅴg	cg			124.42～124.61m：脱色変質し，原岩組織が不明瞭になる。																
						Bg	Ⅳg	bg																			
						Cg	Ⅴg	cg																			
						Bg	Ⅳg	bg																			
						Eg	Ⅵg	dg	γ	3	124.64～130.00m：花崗斑岩である。径2～20mmの石英，長石，黒雲母の斑晶を10～30%程度含む。	5 [0] (100)	CL'						4/24	95						
						Cg	Ⅴg	cg																			
						Eg	Ⅵg	dg																			
127						Bg	Ⅴg	bg		2	126.49～126.71m：砂混じり角礫状を呈する。126.00～128.81m間は所々，割れ目に沿って礫状部を挟む。127.03～127.07m：傾斜20°で幅30mm程度の灰色の石英脈を挟む。																
							Ⅳg	cg																			
								bg																			
						Cg	Ⅴg	cg				8 [3] (100)	CM'														
						Eg	Ⅵg	dg		4	127.56～127.66m：変質し，砂混じり角礫状～粘土混じり砂質角礫状を呈する。上端には幅5mm以下で暗灰色の石英脈を伴う。中間には幅10mm程度の区間で灰白色粘土が網目状に発達し，その下端に幅1mm以下の不連続な灰赤色粘土を挟む。																
						Bg	Ⅳg	bg																			
						Cg	Ⅴg	cg																			
						Bg	Ⅴg	bg																			
128					褐灰	Cg	Ⅴg	cg																			
						Bg	Ⅳg	bg	β	2		10 [10] (100)	CM'						4/25	88				0.2	泥水4	3
							Ⅴg	cg																			
							Ⅳg	bg																			
129						Cg		cg																			
						Bg	Ⅴg	bg				6 [0] (100)	CL'							90							
								cg																			
	-92.52	130.00																									

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	岩級区分
130.00〜132.46			アプライト	褐灰	Bg / Dg	Ⅴg / Ⅵg	bg / cg	β	2 / 3	CL'
				緑灰	Bg / Dg / Cg	Ⅳg / Ⅴg	bg / cg	β	2	CM'
				灰	Bg	Ⅳg / Ⅴg / Ⅳg	bg / cg / bg	β	2	
	−94.40	132.46		灰	Cg	Ⅴg	cg	β	2	
132.46〜			花崗斑岩	明緑灰	Bg / Cg / Bg	Ⅲg / Ⅴg / Ⅳg	bg / cg	β	2	
				赤灰	Cg / Bg / Cg / Bg	Ⅴg / Ⅳg / Ⅴg / Ⅲg	cg / bg / cg	β	2	CL'
				浅黄	Dg	Ⅵg / Ⅳg / Ⅴg	cg	γ	3	
				褐灰	Bg / Cg / Bg / Cg	Ⅲg / Ⅳg	bg	β	2	CM'
				褐灰	Dg	Ⅴg	cg	γ	3	
				褐灰	Bg	Ⅳg / Ⅲg	bg	β	2	CH'
				赤灰	Cg / Bg	Ⅳg / Ⅴg / Ⅳg / Ⅲg / Ⅳg / Ⅲg / Ⅱg	bg	β	2	CM' / CH'

記事

130.00〜132.46m：アプライトである。
径2〜10mmの石英，長石，黒雲母の斑晶を5%程度含む。
130.26〜130.41m：傾斜75° 程度の割れ目と低角度割れ目が密集し，細片状コアからなる。
130.41〜130.47m：幅40mm程度で砂礫状を呈する。
131.02〜131.15m：傾斜20° 程度の割れ目が密集し，やや変質する。
131.65〜132.20m：径10〜40mmのカリ長石の巨晶が点在する。
132.31〜132.57m：中角度割れ目に沿って緑色変質し，砂状化する。
132.46〜145.00m：花崗斑岩である。
径2〜25mmの長石，石英，黒雲母の斑晶を10〜30%程度含む。
133.20〜134.19m：傾斜60° 程度の割れ目に幅1〜3mm程度の方解石脈を挟むことが多い。
134.63m：傾斜53° で幅8mmの方解石脈を挟む。
134.64〜134.86m：中角度〜高角度割れ目が密集する。割れ目沿いにマンガンが濃集し，角礫状を呈する。
135.02〜135.21m：中角度割れ目が密集し，割れ目沿いにマンガンが濃集する。
135.21m：傾斜56° で幅2〜5mmの方解石脈を挟む。
136.60〜136.79m：不規則な割れ目が発達し，割れ目沿いにマンガン汚染が見られる。
137.53〜137.63m：割れ目沿いにマンガン汚染が見られる。
138.62m：傾斜54° で幅2mm以下の方解石脈を挟む。
138.90m以深は割れ目が少なく硬質なコアからなる。
139.31m：傾斜51° の割れ目面に黄鉄鉱が多く晶出する。

コア採取率（%）／最大コア長（cm）／RQD［%］

区間	コア採取率	最大コア長	RQD
130〜131	(100)	6	[0]
131〜132	(100)	6	[0]
132〜133	(100)	20	[20]
133〜134	(100)	10	[10]
134〜135	(100)	12	[12]
135〜136	(100)	14	[14]
136〜137	(100)	18	[28]
137〜138	(100)	13	[13]
138〜139	(100)	10	[20]
139〜140	(100)	35	[59]

標準貫入試験（N値〜深度図）：0 10 20 30 40 50（記入なし）

掘進記録

掘進月日	掘進速度 (cm/時)	コアチューブ／ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)
4/25	90	ダブルコアチューブ／ダイヤモンドビット	20.0	60	0.2	泥水4	3
6/ 6	80		57.2	60	0.1	泥水10	8
	72		58.0	30	0.2	泥水5	4
6/ 7	103		59.0	60	0.2	泥水5	4
6/ 8	66		60.2	120	0.2	泥水10	8
	43		60.2	120	0.2	泥水10	8

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) / 最大コア長 cm / RQD [%]	岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	(N)値	(標準貫入)試験 (N値～深度)図	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L／分)	排水量(L／分)
				花崗斑岩	赤灰	Bg	Ⅱg	bg	β	2			CH'						6/8	43		ダブルコアチューブ／ダイヤモンドビット	60.2	120	0.2	泥水 10	8
							Ⅲg																				
							Ⅱg																				
							Ⅳg																				
141					明緑灰	Gr	Ⅲg				141.52m：傾斜58°の割れ目面に黄鉄鉱が多く晶出する。									56			61.0				
							Ⅱg												6/10						0.1	泥水 10	8
142						Bg																					
							Ⅲg													50			62.0				
143							Ⅱg																				
							Ⅳg																				
							Ⅴg																				
							Ⅵg																				
144							Ⅲg																				
							Ⅳg																				
							Ⅱg												6/11	43			63.0				
							Ⅳg				144.74m：傾斜53°の割れ目面に黄鉄鉱が多く晶出する。割れ目周辺は幅20mm以下で浅黄橙色に変質する。																
	104.01	145.00																									

[redacted]

孔番：H31-R-1　　深度：0.00m ～ 18.00m

[redacted]

[redacted]

孔番：H31-R-1　　深度：18.00m ～ 36.00m

[redacted]

[redacted]

孔番：H31-R-1　　深度：36.00m ～ 54.00m

[redacted]